千葉県八千代市

市内遺跡発掘調査報告書

大和田新田芝山遺跡ｃ地点
稲荷前遺跡ｄ地点
新東原遺跡ｈ地点
川崎山遺跡ｌ地点
下高野新山遺跡
島田込の内遺跡ｂ地点
道地遺跡ｃ地点
道地遺跡ｄ地点

平成19年度

八千代市教育委員会

凡　　例

1．本書は，八千代市教育委員会が平成18年度市内遺跡発掘調査事業として，国庫及び県費の補助を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。報告書作成作業は，平成19年度事業として行った。

2．本書に収録した発掘調査は，以下のとおりである。

No.	遺　跡　名	所　在　地	調 査 期 間	調　査　面　積	調査原因	調査担当
1	大和田新田芝山遺跡 c 地点	大和田新田字芝山885番 5,14	平成18年４月19日～ 平成18年４月27日	上層　216㎡ /2,114.9㎡	共同住宅建設	森　竜哉
2	稲荷前遺跡 d 地点	上高野字上谷津台1119-1 の一部ほか	平成18年５月１日～ 平成18年５月２日	上層　129㎡ /1,328.95㎡	共同住宅建設	森　竜哉
3	新東原遺跡 h 地点	勝田字新東原1285-1ほか	平成18年５月29日～ 平成18年６月27日	上層　452㎡ /6,242㎡ 下層　16㎡ /6,242㎡	宅地造成	宮澤久史
4	川崎山遺跡 ℓ 地点	萱田町字川崎山731番１ の一部ほか	平成18年６月21日～ 平成18年７月６日	上層　105㎡ /1,051.56㎡	共同住宅建設	森　竜哉
5	下高野新山遺跡	下高野字新山550	平成18年７月27日～ 平成18年８月21日	上層　544㎡ /4,985㎡	病院増築	宮澤久史
6	島田込の内遺跡 b 地点	島田字込之内988-1ほか	平成18年９月28日～ 平成18年10月13日	上層　255㎡ /2,168.71㎡	店舗建設	森　竜哉
7	道地遺跡 c 地点	佐山字子の神台2367-2,3	平成18年12月１日～ 平成18年12月８日	上層　104㎡ /991㎡	住宅建設	宮澤久史
8	道地遺跡 d 地点	平戸字沼上57-1	平成18年12月14日～ 平成18年12月20日	上層　110㎡ /1,019㎡	住宅建設	宮澤久史

3．グリッドNo.・トレンチNo.・遺構No.は，数字と記号（アルファベット）の組合せで表記した。記号は以下のとおりである。

グリッド　G　　トレンチ　T　　土坑　P　　溝　M

4．遺物は，原則として一括（取り上げ番号無し）で取り上げている。観察表の「計測値」における（数値）は，復元値である。

5．遺物実測図中のスクリーントーンは，以下のとおりである。

繊維土器　　須恵器

6．出土した遺物のほか，写真・図面等の調査資料は，八千代市教育委員会が保管している。

7．本書の図版作成は，常松成人・寺澤洋子・鶴田美保が行い，遺物の写真撮影・編集・執筆は常松が担当した。

目　　次

凡　例
目　次
　挿図目次
　表目次
　写真図版目次
Ⅰ　調査に至る経緯……1
Ⅱ　各遺跡の概要
　１．大和田新田芝山遺跡ｃ地点……4
　２．稲荷前遺跡ｄ地点……7
　３．新東原遺跡ｈ地点……9
　４．川崎山遺跡ℓ地点……13
　５．下高野新山遺跡……17
　６．島田込の内遺跡ｂ地点……21
　７．道地遺跡ｃ地点……26
　８．道地遺跡ｄ地点……31
報告書抄録……34

挿　図　目　次

第１図　平成18年度調査市内遺跡位置図……3
第２図　大和田新田芝山遺跡位置図……4
第３図　大和田新田芝山遺跡ｃ地点トレンチ配置図・土層断面図・遺物……5
第４図　稲荷前遺跡位置図……7
第５図　稲荷前遺跡ｄ地点トレンチ配置図・土層断面図……8
第６図　新東原遺跡位置図……9
第７図　新東原遺跡ｈ地点遺構配置図……11
第８図　新東原遺跡ｈ地点土層断面図……11
第９図　新東原遺跡ｈ地点出土遺物……11
第10図　川崎山遺跡位置図……13
第11図　川崎山遺跡ℓ地点遺構配置図……15
第12図　川崎山遺跡ℓ地点土層断面図……15
第13図　川崎山遺跡ℓ地点出土遺物……15
第14図　下高野新山遺跡位置図……17
第15図　下高野新山遺跡遺構配置図・土層断面図……19
第16図　下高野新山遺跡の縄文土器……19
第17図　島田込の内遺跡位置図……21
第18図　島田込の内遺跡ｂ地点遺構配置図……22
第19図　島田込の内遺跡ｂ地点土層断面図……22

第20図　島田込の内遺跡ｂ地点の遺物……24
第21図　道地遺跡位置図……26
第22図　道地遺跡ｃ地点遺構配置図・土層断面図……27
第23図　道地遺跡ｃ地点出土遺物……29
第24図　道地遺跡ｄ地点トレンチ配置図・表採遺物……31

表　目　次

第１表　下高野新山遺跡縄文土器観察表……18
第２表　島田込の内遺跡ｂ地点出土遺物観察表……23
第３表　道地遺跡ｃ地点出土土器観察表……28

写真図版目次

図版１　大和田新田芝山遺跡ｃ地点……６
図版２　稲荷前遺跡ｄ地点……８
図版３　新東原遺跡ｈ地点……12
図版４　川崎山遺跡ℓ地点……16
図版５　下高野新山遺跡……20
図版６　島田込の内遺跡ｂ地点……25
図版７　道地遺跡ｃ地点……30
図版８　道地遺跡ｄ地点……32

Ⅰ　調査に至る経緯

八千代市は，首都圏のベッドタウンとして開発が進み，平成８年４月の東葉高速鉄道の開業以来，さらにその傾向を強めている。近年は，市域北部における主要地方道船橋印西線の開通や，都市計画法の改正による規制の緩和などによって，遺跡残存率の高い農村地帯でも開発事業が増加する傾向にある。こうした状況の中，八千代市教育委員会（以下「市教委」と略す）では，千葉県教育委員会の指導のもと，開発事業者から事前手続きとして提出される「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて（照会）」（以下「照会」と略す）に対し，埋蔵文化財の保護に努めてきた。確認調査が必要と判断される事業については，国庫及び県費の補助を受け，「市内遺跡発掘調査事業」として調査を実施している。なお，事前照会については，平成18年度に見直しが行われ，照会文書は原則的に廃止され，平成18年10月以降は，「埋蔵文化財の取扱いについて（確認）」（以下「確認依頼」と略す）に対処する形式となった。

以下は，平成18年度に実施した「市内遺跡発掘調査事業」の各調査に至る経緯である。

大和田新田芝山遺跡ｃ地点

平成18年２月，事業者である高橋義博氏から大和田新田字芝山の共同住宅建設事業に係る照会が提出された。

照会地は，周知の遺跡範囲内であり，近隣において遺構・遺物が検出されている。現況は畑地で，縄文土器等の遺物が散布していた。このため，市教委は，遺跡が所在する旨を同年３月に回答し，取扱いに係る協議を行った。その結果，事業者は共同住宅建設事業を進めたいとのことであり，発掘調査を行うこととなった。同年４月，事業者から文化財保護法第93条第１項の規定による土木工事のための発掘届（以下「土木工事の届」と略す）が提出され，４月19日に調査を開始した。

稲荷前遺跡ｄ地点

平成18年２月，事業者である中村二男氏から上高野字上谷津台の共同住宅建設事業に係る照会が提出された。

照会地は，盛土があるため地表面観察はできなかったが，周知の遺跡範囲内であり，近隣で遺構・遺物が検出されている。このため，市教委は，遺跡が所在する旨を同年３月に回答し，取扱いに係る協議を行った。その結果，事業者は共同住宅建設事業を進めたいとのことであり，発掘調査を行うこととなった。同年４月，事業者から土木工事の届が提出され，５月１日に調査を開始した。

新東原遺跡ｈ地点

平成18年２月，事業者である株式会社アットホームセンターから勝田字新東原の宅地開発事業に係る照会が提出された。

照会地は，周知の遺跡範囲内であり，隣接地で遺構・遺物が検出されている。このため，市教委は，遺跡が所在する旨を同月に回答し，取扱いに係る協議を行った。その結果，事業者は宅地開発事業を進めたいとのことであり，発掘調査を行うこととなった。同年５月，事業者から土木工事の届が提出され，５月29日に調査を開始した。

川崎山遺跡ℓ地点

平成18年１月，事業者である長岡洋二氏から萱田町字川崎山の共同住宅建設事業に係る照会が提出された。

照会地は，周知の遺跡範囲内であり，隣接地や近隣で遺構・遺物が検出されている。このため，市教委は，遺跡が所在する旨を同月に回答し，取扱いに係る協議を行った。その結果，事業者は共同住宅建設事業を進めたいとのことであり，発掘調査を行うこととなった。同年５月，事業者から土木工事の届が提出され，６月21日に調査を開始した。

下高野新山遺跡（第5次確認調査）

平成18年３月，事業者である医療法人社団心和会から下高野字新山の病院増築事業に係る照会が提出された。照会地は，周知の遺跡範囲内であり，同じ病院敷地内で遺構・遺物が検出されている。このため，市教委は，遺跡が所在する旨同月に回答し，取扱いに係る協議を行った。その結果，事業者は病院増築事業を進めたいとのことであり，発掘調査を行うこととなった。同年６月，事業者から土木工事の届が提出され，７月27日に調査を開始した。

島田込の内遺跡ｂ地点

平成18年７月，事業者である信田広晶氏・大高綾子氏から島田字込之内の店舗建設事業に係る照会が提出された。

照会地は，現況が山林で地表面観察はできなかったが，周知の遺跡範囲内であり，隣接地で遺構・遺物が濃密に検出されている。このため，市教委は，遺跡が所在する旨を同月に回答し，取扱いに係る協議を行った。その結果，事業者は店舗建設事業を進めたいとのことであり，発掘調査を行うこととなった。同年８月，事業者から土木工事の届が提出され，９月28日に調査を開始した。

道地遺跡ｃ地点

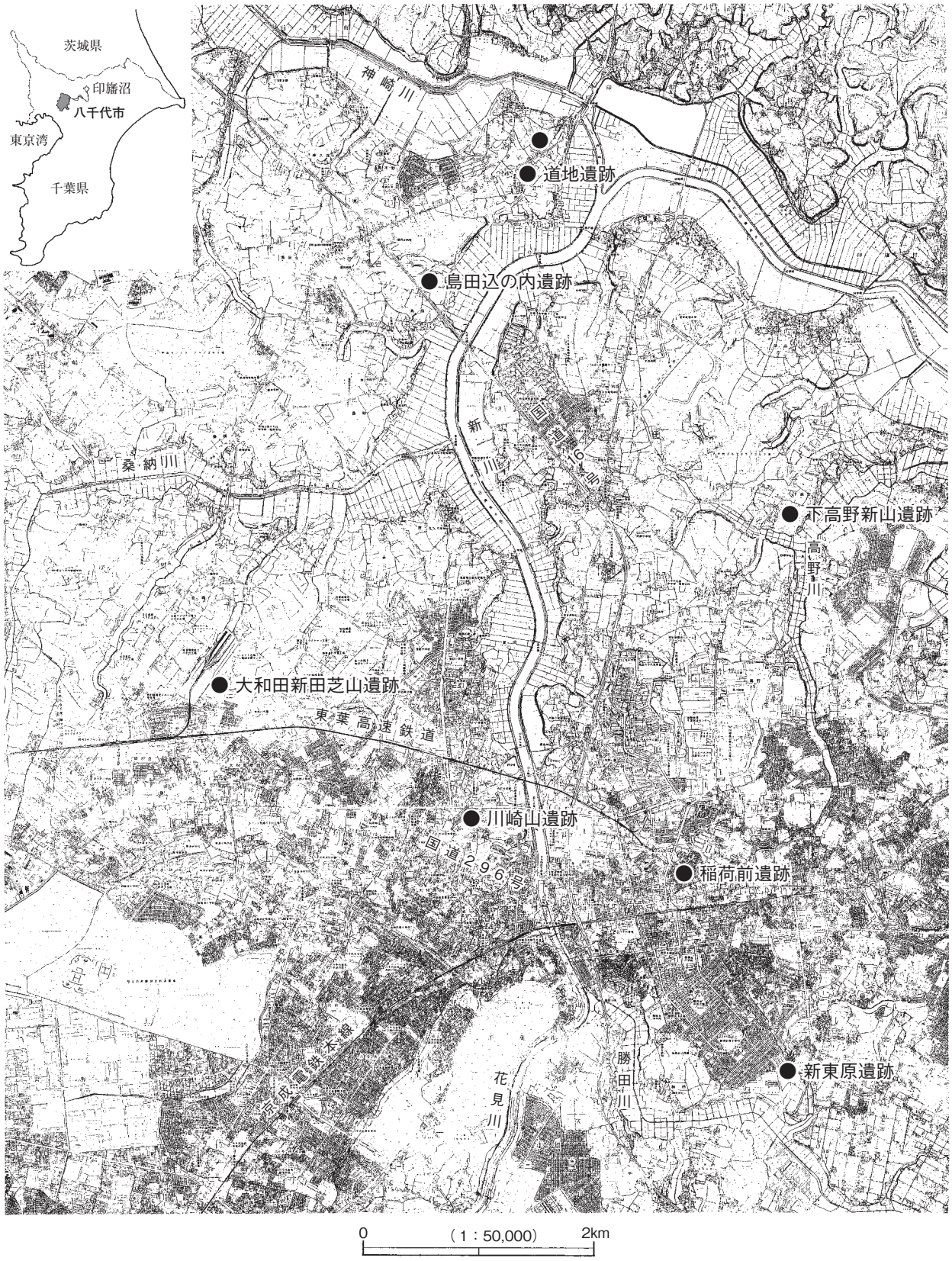
平成18年11月，事業者である染谷不動産株式会社から佐山字子ノ神台の住宅建設事業に係る確認依頼が提出された。

対象地は，現況が砂利敷き駐車場で地表面観察はできなかったが，周知の遺跡範囲内であり，周辺の畑地には遺物が散布していた。このため，市教委は，遺跡が所在する旨を同月に回答し，取扱いに係る協議を行った。その結果，事業者は住宅建設事業を進めたいとのことであり，発掘調査を行うこととなった。同年11月，事業者から土木工事の届が提出され，12月１日に調査を開始した。

道地遺跡ｄ地点

平成18年11月，事業者である株式会社フィッシャーから平戸字沼上の住宅建設事業に係る確認依頼が提出された。

対象地は，周知の遺跡範囲内であり，現況が畑地で，遺物の散布を確認できた。このため，市教委は，遺跡が所在する旨を同月に回答し，取扱いに係る協議を行った。その結果，事業者は住宅建設事業を進めたいとのことであり，発掘調査を行うこととなった。同年12月，事業者から土木工事の届が提出され，12月14日に調査を開始した。



第１図　平成18年度調査市内遺跡位置図

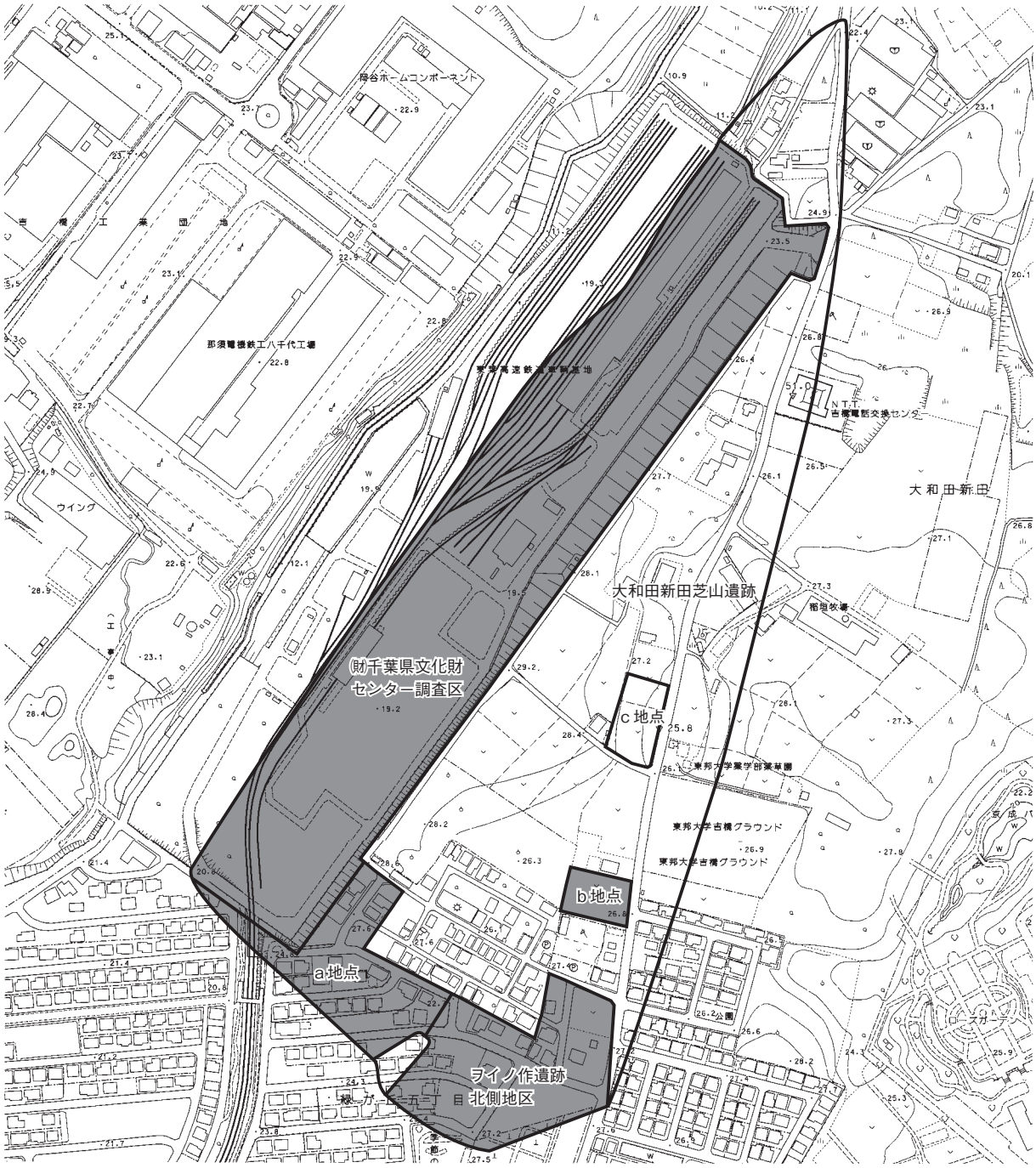
（八千代都市計画基本図に加筆）

Ⅱ　各遺跡の概要

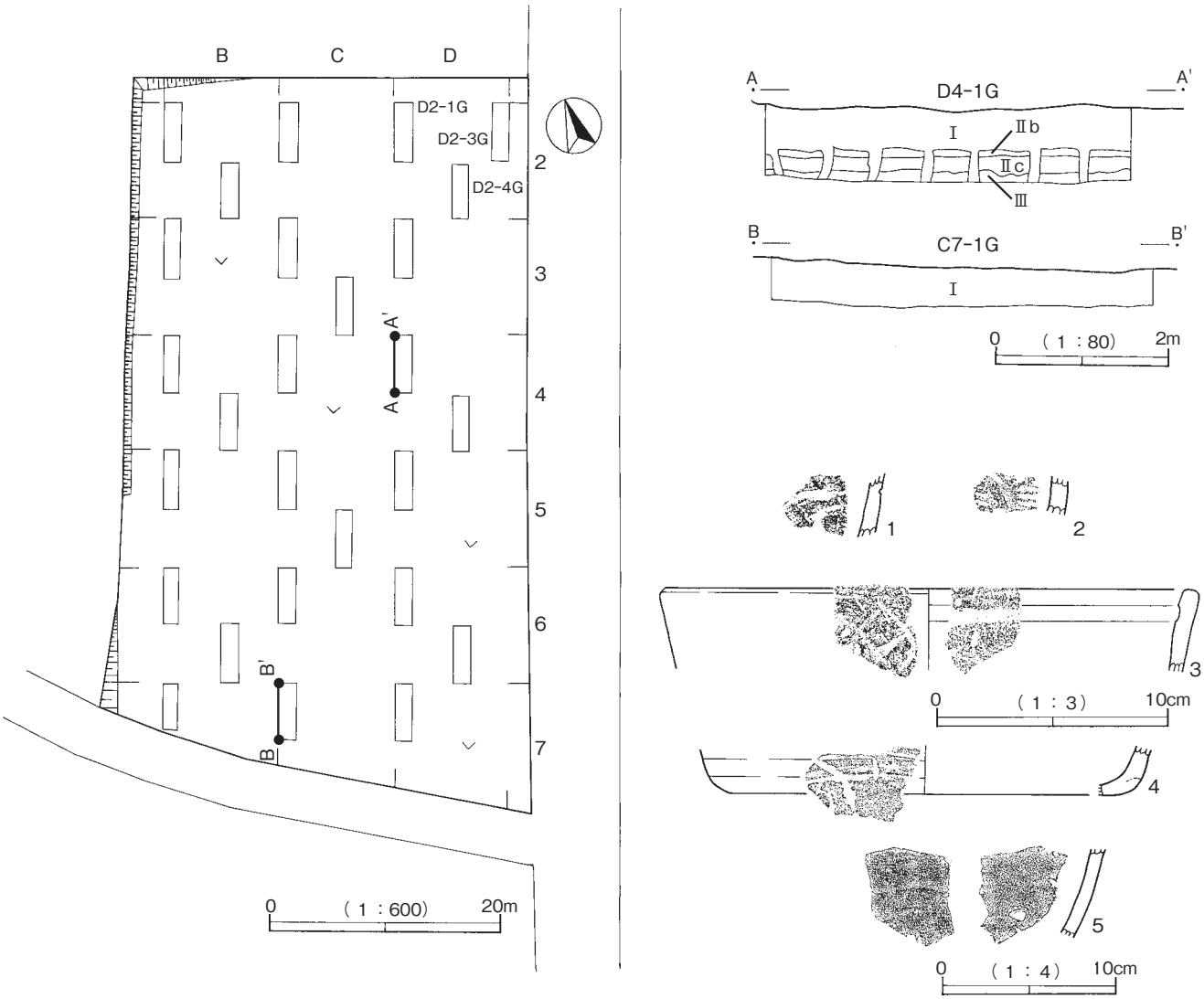
１．大和田新田芝山遺跡ｃ地点

遺跡の立地と概要

大和田新田芝山遺跡は，市域の南部，桑納川の低地から南西に伸びる花輪谷津に臨む台地上に立地する。本遺跡については，谷に面する区域が発掘調査され，旧石器～平安時代の遺構・遺物が検出されている。ｃ地点は，台地中央部付近の標高27ｍ前後に位置する。現況は畑地で，地表面には縄文土器や陶器・磁器が散布していた。



第２図　大和田新田芝山遺跡位置図（S＝１：5000）



第３図　大和田新田芝山遺跡ｃ地点トレンチ配置図・土層断面図・遺物

調査の方法と経過

調査区を形状に合わせて10m四方のグリッドで区画し，２m×４mのトレンチを区画に合わせて規則正しく27か所216㎡分設定した。人力及び重機でこれらを掘削し，遺構・遺物の検出に努めた。

調査期間は，平成18年４月19日から27日で，19日グリッド・トレンチ設定，人力による掘削。20日重機による掘削。22日・24日清掃検出作業。26日・27日土層調査，実測記録，27日機材を撤収し，調査を終了した。

調査の概要

土層の観察所見としては，ソフトロームまでの深さは，調査区中央が浅く40～55cmであった。調査区中央南部のＣ７－１Ｇ西壁では，Ⅰ層（表土）が厚さ約40cm，その下がすぐにⅢ層（ソフトローム）で，最も浅かった。調査区西側は55～75cm，東側は80～105cmと東側の方が深くなる。東側のＤ４－１Ｇ西壁で土層を観察したところ，Ⅰ層（表土層）が厚さ約50cm，Ⅱｂ層（腐植土層）が厚さ約10cm，Ⅱc層（漸移層）が厚さ約20cm堆積し，地表下約85cmでⅢ層（ソフトローム層）に至るという比較的良好な堆積状況が観察された。

遺構は，検出されなかった。遺物の出土は少なく，調査区北～北東部のＣ２－１Ｇ，Ｄ２－３Ｇで各１点が出土したのみであった。表面採集遺物は16点で，うち８点が磁器，４点が陶器であった。５点を

抽出して図示した。１～３は，縄文土器。１は，Ｄ２－３Ｇ出土。胎土に雲母・長石・粗砂を多く含み，外面には押引き文が見える。阿玉台式か。２は，表採。不明瞭だが，微隆起のような高まりがあり，加曽利Ｅ４式か。３は，表採。深鉢の口縁部。復元口径は，内径で21.6㎝。摩滅している。内面に沈線が１条廻る。加曽利Ｂ式粗製土器か。４は，Ｃ２－１Ｇ出土。焙烙か。復元底径23㎝。５は，表採。暗灰色・黒色・黒褐色で，内面には釉薬がかかる。

調査のまとめ

台地縁辺部の調査（落合1990，森1996）においては，旧石器・縄文・平安の各時代の遺物や遺構が検出されているが，それに比べて，台地中央部のｃ地点では，遺構・遺物とも希薄である。この傾向は，ｂ地点（市教委2004）の調査時に確認できたが，今回の調査でさらに明確となった。台地縁辺部と台地中央部との土地利用の差は，一般的に認められる傾向であるが，具体例として本遺跡を挙げることができるということである。なお，焙烙など近世以降の遺物を採集した点は，新知見である。

文献

落合章雄(1990)『八千代市仲ノ台遺跡・芝山遺跡－東葉高速鉄道引込み線および車庫用地内埋蔵文化財調査報告書－』財団法人千葉県文化財センター

森竜哉（1996）『千葉県八千代市仲ノ台遺跡・ヲイノ作遺跡他－西八千代東部土地区画整理事業に先行した埋蔵文化財発掘調査報告書』八千代市西八千代群調査会（ａ地点，ヲイノ作遺跡北側地区）

八千代市教育委員会(2004)『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成15年度』（ｂ地点）

図版１　大和田新田芝山遺跡ｃ地点

（1）調査区近景

（2）C7－1G土層断面

（3）トレンチ完掘状況

（4）遺物

２．稲荷前遺跡ｄ地点

遺跡の立地と概要

稲荷前遺跡は，市域の南東部，八千代市と佐倉市との市境を流れる高野川（小竹川）の西岸台地上，標高20～26ｍに立地する。緩斜面であるａ地点では，縄文時代早期の炉穴，奈良平安時代の方形周溝状遺構などが検出されているが，台地上平坦面で標高25ｍのｂ・ｃ地点は，遺物・遺構とも希薄である。ｄ地点は，ｂ・ｃ地点に隣接しており，この一帯は盛土のため地表面観察は不可能であるが，周辺の畑地で土器片が採集できるという所見があり，新たな遺跡の展開を期待した。

調査の方法と経過

調査区の形状に合わせて５本のトレンチ計129㎡分を設定し，重機で掘削し，遺構・遺物の検出に努めた。

調査期間は，平成18年５月１日から２日で，重機による掘削後，１日清掃検出作業，土層調査。２日重機による埋め戻し，機材を撤収し，調査を終了した。

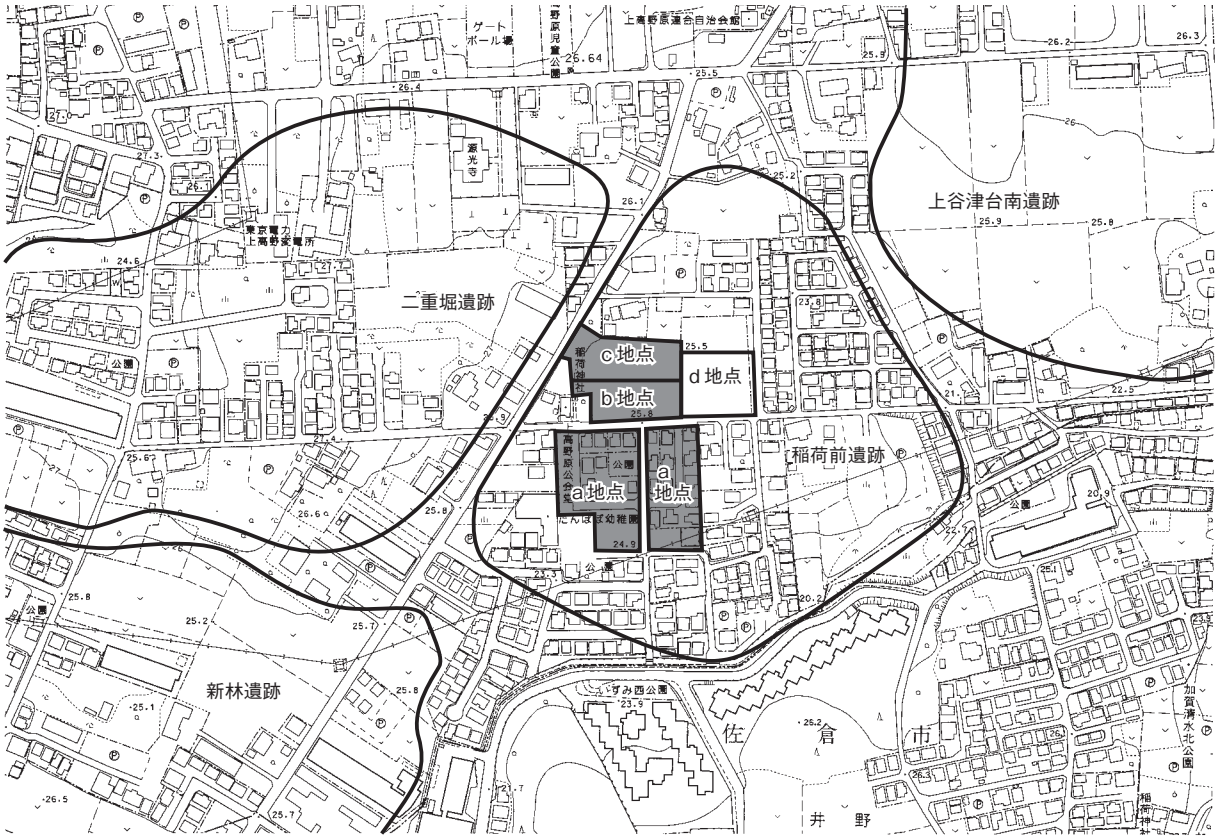
調査の概要

２Ｔの南壁土層を観察すると，盛土・砂利・砕石が約60㎝の厚さで埋められ，点圧されており人力による掘削は困難であった。この点は，ｂ・ｃ地点とほぼ同様の状況である。その下にⅠ層（旧耕作土）が15～40㎝の厚さで堆積し，さらにその下はⅢ層（ソフトローム層）である。

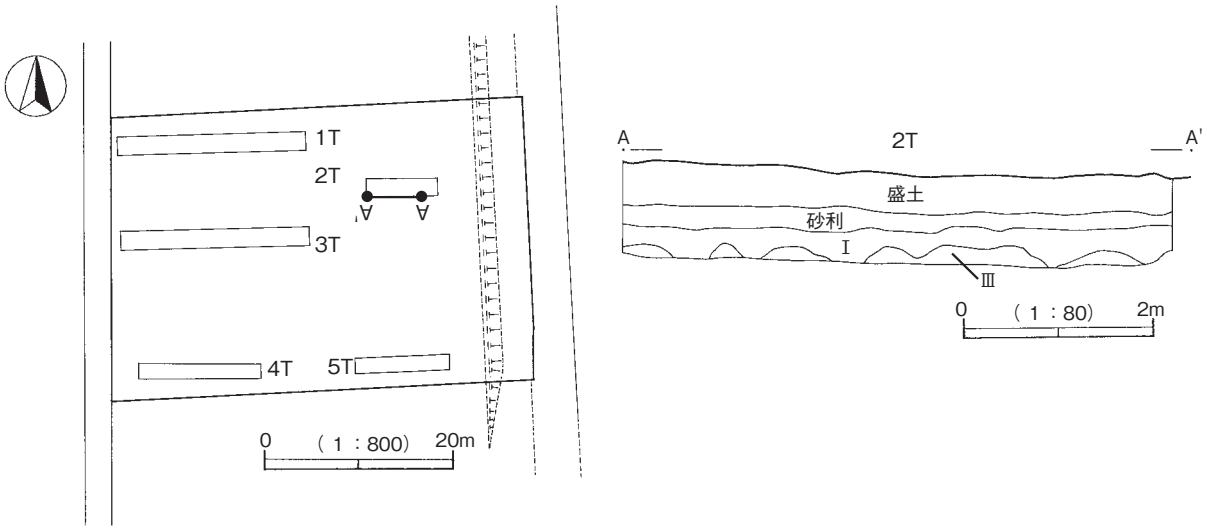
遺構・遺物とも検出されなかった。

調査のまとめ

ｃ地点に続き，今回も遺構・遺物が検出されず，遺跡の中央北寄りは空白地帯になることが明確となった。



第４図　稲荷前遺跡位置図（S＝１：5000）



第５図　稲荷前遺跡ｄ地点トレンチ配置図・土層断面図

文献
八千代市教育委員会（2000）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成12年度』（ｂ地点）
朝比奈竹男(2002)『千葉県八千代市不特定遺跡発掘調査報告書１』　八千代市教育委員会（ａ地点）
八千代市教育委員会（2004）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成15年度』（ｃ地点）

図版２　稲荷前遺跡ｄ地点

（1）調査区近景

（2）2T調査状況

（3）3T調査状況

（4）トレンチ完掘状況

３．新東原遺跡ｈ地点

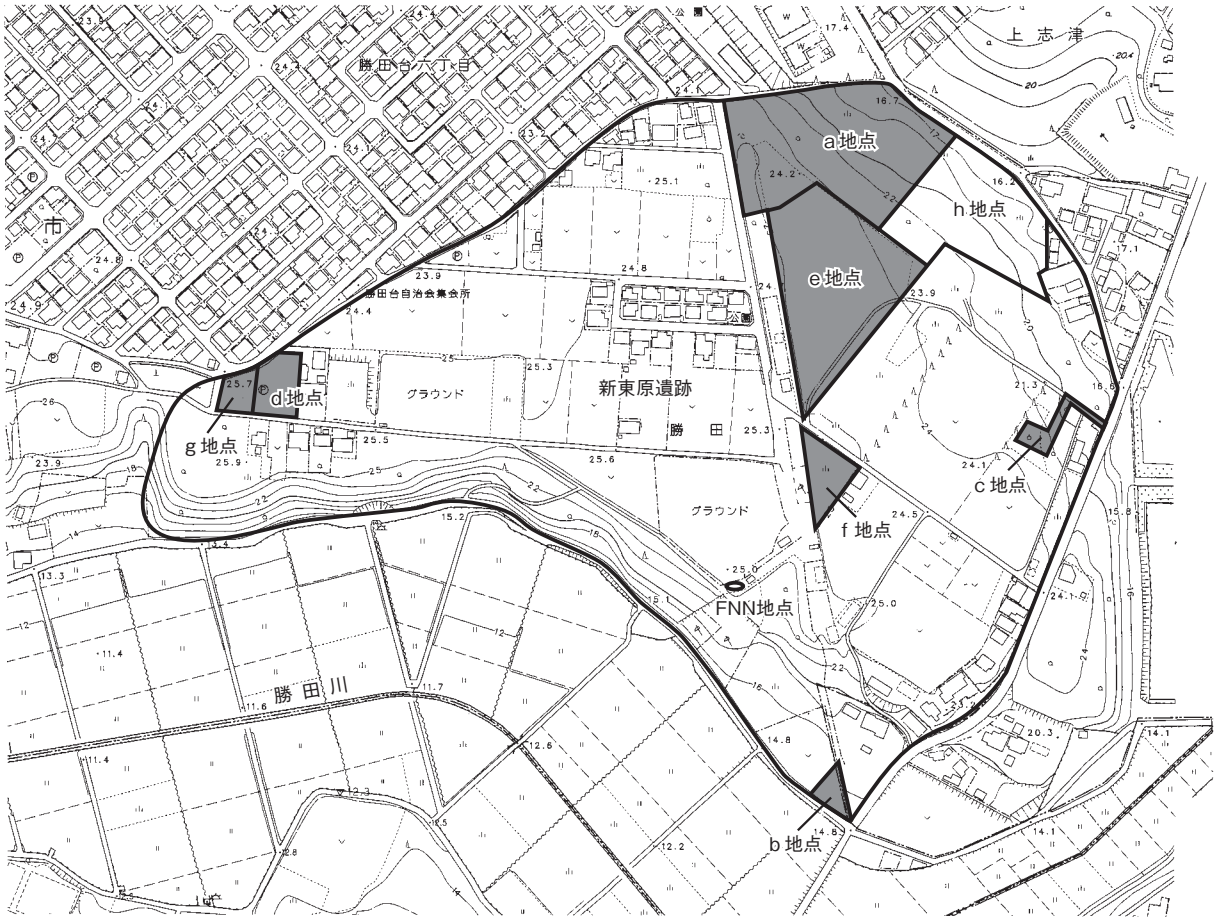
遺跡の立地と概要

新東原遺跡は，市域の南東端，佐倉市との市境付近にある。勝田川及びその低地から北～北西に伸びる支谷に囲まれた台地の先端部が遺跡の範囲である。近年本遺跡内での開発事業が増加しており，既にａ～ｇ７地点で発掘調査を実施している。今回のｈ地点は，遺跡北東部のａ地点・ｅ地点に接する斜面部で，標高16～23mである。ａ地点では，縄文時代後期加曽利Ｂ式土器と小ピット群などが検出され，ｅ地点では旧石器時代の黒曜石剥片のブロックや縄文土器のほか，旧陸軍の下志津原射撃演習場に関連する砲弾破片・信管・弾子などが出土した。ｈ地点でもそれらと同様の成果が予想された。特にａ地点の加曽利Ｂ式期の遺跡の展開が期待された。現況は山林で地表面観察は不可能であった。

調査の方法と経過

調査区を形状に合わせて10m四方のグリッドで区画し，２m×５m及び２m×２mのトレンチを区画に合わせて規則正しく47か所452㎡分設定した。人力及び重機でこれらを掘削し，遺構・遺物の検出に努めた。

調査期間は，平成18年５月29日から６月27日で，29日～６月２日グリッド・トレンチ設定，環境整備。29日～６月６日人力による掘削。６日～13日重機による掘削。６日～21日清掃検出作業。５日～19日土層調査，実測記録。22日・23日下層調査，27日重機による埋め戻し，機材を撤収し，調査を終了した。



第６図　新東原遺跡位置図（S＝１：5000）

調査の概要

調査区西端の斜面上方に当たるＫ－３Ｇ南東壁の土層を観察すると，Ⅰ層（表土層），Ⅱ-1層（黒色土層），Ⅱ-2層（暗褐色土層），Ⅱ-3層（黄褐色土層，新期テフラに相当），Ⅱ-4層（暗褐色土層）となっている。深さ1.1～1.97m掘り下げてもローム層には至らなかった。調査区北西部の斜面中位に当たるＫ－５Ｇ南東壁の土層は，Ⅰ層（表土層），Ⅱ-1層（黒色土層），Ⅱ-3層（黄褐色土層），Ⅱ-4層（暗褐色土層），Ⅱ-5層（黒褐色土層），Ⅱ-6層（暗褐色土層，しまり非常に強い）となっている。ここも深さ1.8～2.1m掘り下げてもローム層には至らなかった。調査区中央部の斜面中位に当たるＧ－５Ｇの南東壁の土層は，Ⅰ層（表土層），Ⅱ-1層（黒色土層），Ⅱ-4層（暗褐色土層），Ⅱ-7層（漸移層）となっており，0.4～0.5mでソフトローム層に至る。さらに調査区南東部の斜面中位に当たるＥ－５Ｇ南東壁の土層は，Ⅰ層（表土層），Ⅱ-7層（漸移層），Ⅲ層（ソフトローム層）で，深さ0.3～0.4mでソフトローム層に至る。

遺構は，調査区西部のＪ－３Ｇと東部のＣ－６Ｇでそれぞれ１基ずつ土坑が検出された。前者１Ｐは，プラン1.55m×1.14mの長方形，覆土はしまりの弱い暗褐色土主体で，黒色土・ロームを少量含む。後者の２Ｐは，プラン1.56m×1.46mの不整方形，覆土は中央部がしまりの弱い暗赤褐色土で多量の焼土を含み，その周囲は暗褐色土で黒色土と炭化物を少量含む。伴出遺物は無く時期不明である。

下層調査は，２m×２mのトレンチ４か所16㎡分を第2黒色帯上部まで掘り下げたが，遺物は出土しなかった。

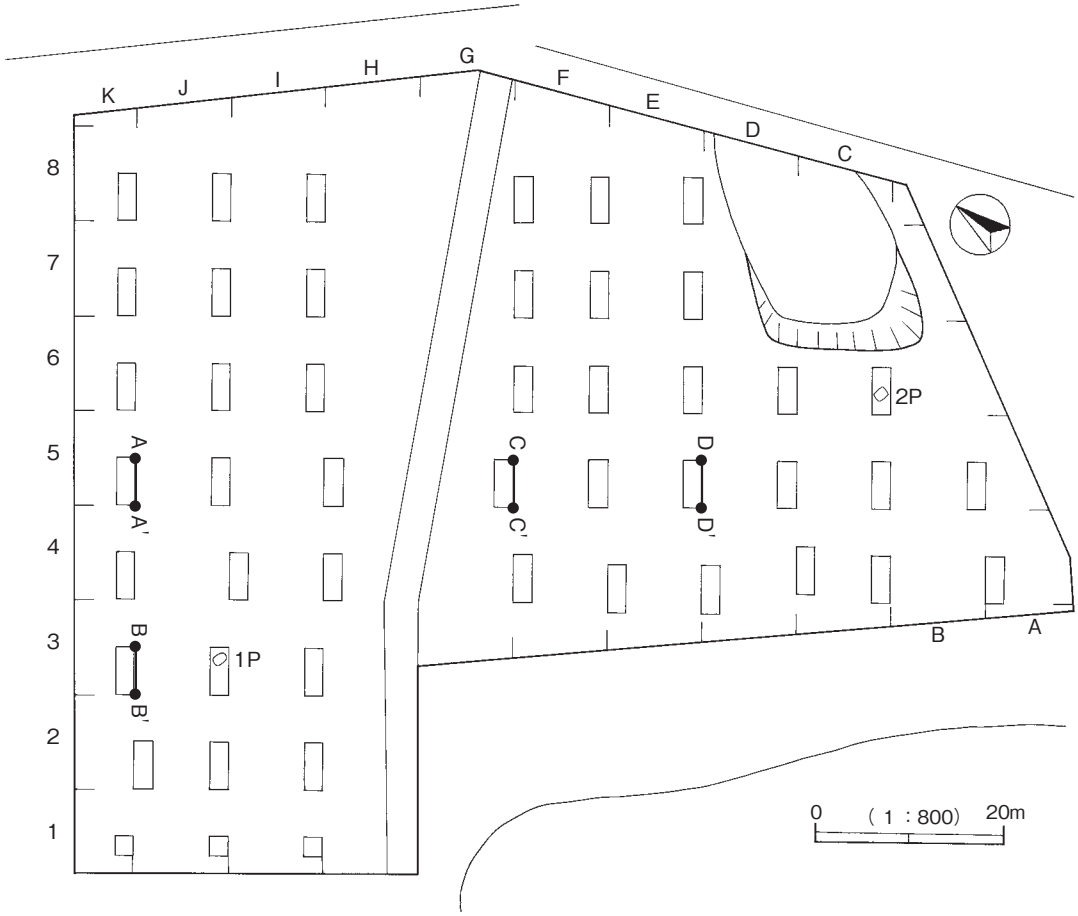
遺物の出土は，総数わずか３点であった。１は，Ｇ－４Ｇ出土。縄文土器深鉢の口縁部で，復元口径（外径）14.4㎝。粗いＬＲ縄文が施文され，内面に沈線１条が廻るが，これは半裁竹管を伏せた状態で施文したもの。その上方が欠けている。堀之内式粗製土器か。２は，Ｄ－６Ｇ出土。珪質頁岩の剥片。大きさは21㎜×31㎜×６㎜。石器に利用される良質な石材である。３は，Ｄ－５Ｇ出土。砲弾の弾子。14.5㎜×13㎜の球形。半球体を２つ貼り合わせて製作しているらしく，その痕跡や切り離し痕がある。また着弾時の痕跡かもしれない平坦部がある。

調査のまとめ

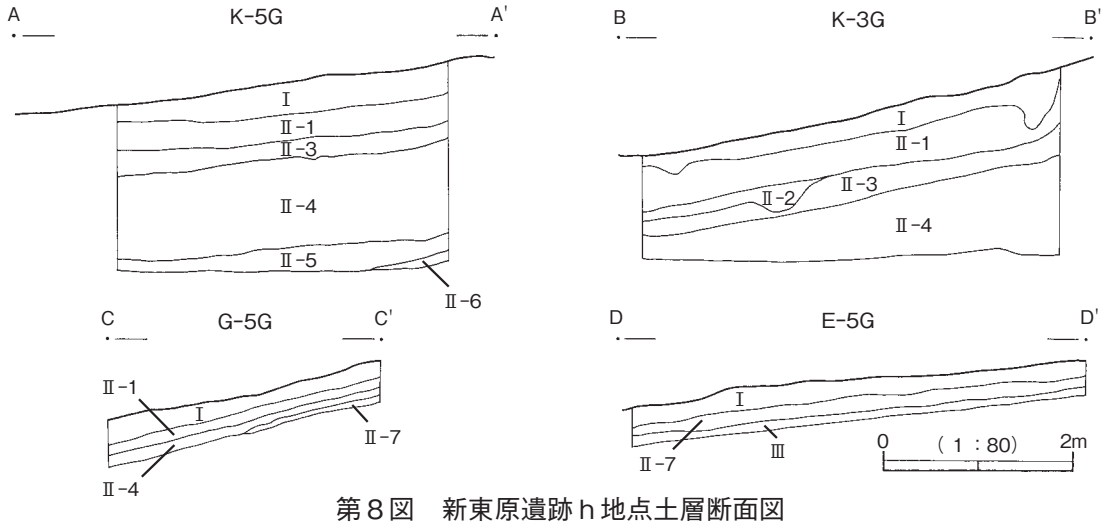
遺物・遺構ともに希薄な状況が明らかとなった。期待された加曽利Ｂ式の遺跡の展開は，認められなかった。

文献

八千代市教育委員会(2003)『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成14年度』（ａ地点）
八千代市教育委員会(2004)『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成15年度』（ｂ地点・ｃ地点）
常松成人(2004)『千葉県八千代市新東原遺跡ａ地点発掘調査報告書－宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査－』八千代市遺跡調査会
八千代市教育委員会(2005)『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成16年度』（ｄ地点）
八千代市教育委員会(2006)『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成17年度』（ｅ地点・ｆ地点）
八千代市教育委員会(2004)『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成18年度』（ｇ地点）



第７図　新東原遺跡ｈ地点遺構配置図



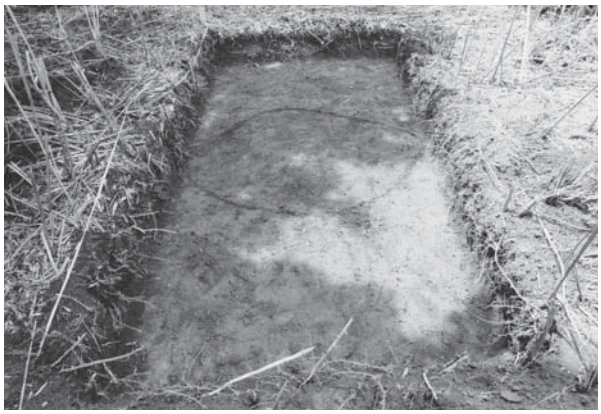
第８図　新東原遺跡ｈ地点土層断面図

第９図　新東原遺跡ｈ地点出土遺物

図版３　新東原遺跡ｈ地点

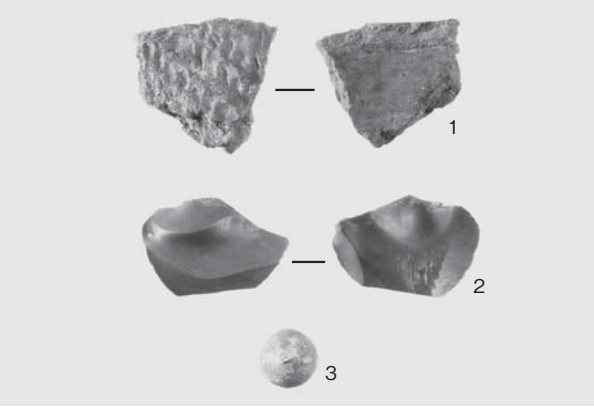
（1）調査前状況

（2）K-3G土層断面



（3）C-6G　2P検出状況

（4）トレンチ完掘状況



（5）出土遺物

４．川崎山遺跡ℓ地点

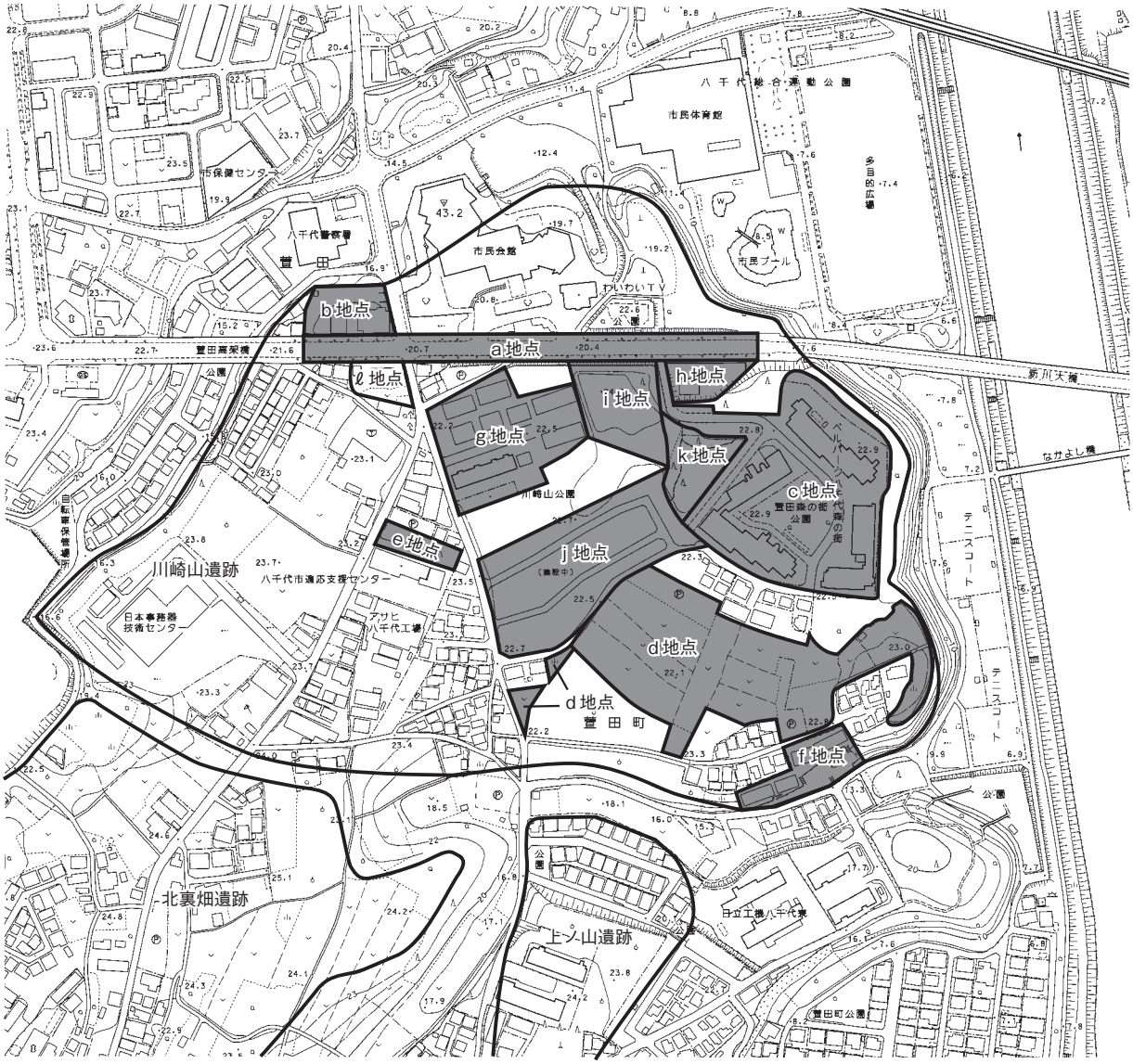
遺跡の立地と概要

川崎山遺跡は，市域の南部中央，新川の西岸に位置する。北と南を新川の低地から入る小谷によって画された台地上一帯が遺跡である。標高は20～26mである。

市内で最も調査件数の多い遺跡で，台地の東半は全貌がほぼ明らかとなり，縁辺を中心に旧石器時代～平安時代に及ぶ遺物や集落跡が，台地中央部には縄文時代の狩猟用陥穴と近世以降の溝が検出されている。特に弥生時代後期～古墳時代中期の集落跡が主体である。今回の地点は，北にａ地点が隣接し弥生時代後期の住居跡が近くで検出されている。また南東に道路を挟んでｇ地点があり，溝と縄文時代の陥穴が検出されている。標高23m前後の平坦地である。

調査の方法と経過

調査区を形状に合わせて10m四方のグリッドで区画し，２ｍ×４ｍのトレンチを区画に合わせて規則正しく13か所を設定した。拡張部を合わせて105㎡分を人力及び重機で掘削し，遺構・遺物の検出に努めた。



第10図　川崎山遺跡位置図（S＝１：5000）

調査期間は，平成18年６月21日から７月６日で，21日グリッド・トレンチ設定。22日人力による掘削。23日･27日重機による掘削。28日･29日清掃検出作業。30日～７月３日土層調査，実測記録。４日機材撤収。６日重機による埋め戻しを行い，調査を終了した。

調査の概要

調査区北半の中央やや西寄りに当たるＣ２－１Ｇ西壁の土層は，盛土，Ⅰ層（表土層：暗褐色土），Ⅱa層（腐植土層：黒褐色土），Ⅱb層（新期テフラ層：褐色土），Ⅱc層（漸移層：暗褐色土），Ⅲ層（ソフトローム層）という良好な堆積であった。Ⅲ層までの深さは，0.74～0.9mであった。調査区南半の中央やや東寄りに当たるＤ３－４Ｇ東壁の土層は，盛土，Ⅰ層，Ⅱa層，Ⅱc層，Ⅲ層となっており，Ⅲ層までの深さは，0.53～0.8mであった。

遺構は，調査区南東部Ｅ３Ｇ～Ｅ４Ｇにかけて溝状遺構が３条検出された。最も新しいのが東西方向の１Ｍで，長さ1.4m程の検出である。覆土は，暗黒褐色土主体で，ローム粒子・焼土粒子を含む。Ⅰ層よりは古いが，Ⅱa層を切っている。１Ｍに切られる２Ｍは，暗褐色土を主体とし，黒色土・ローム粒子・焼土粒子を含む覆土である。Ⅱa層より古く，Ⅱc層を切る。最も古いと判断される３Ｍは，Ｅ４Ｇ内で東西方向～南北方向に直角に曲がっている。覆土は，暗褐色土・黒褐色土で，ローム粒子・ロームブロックを含む。

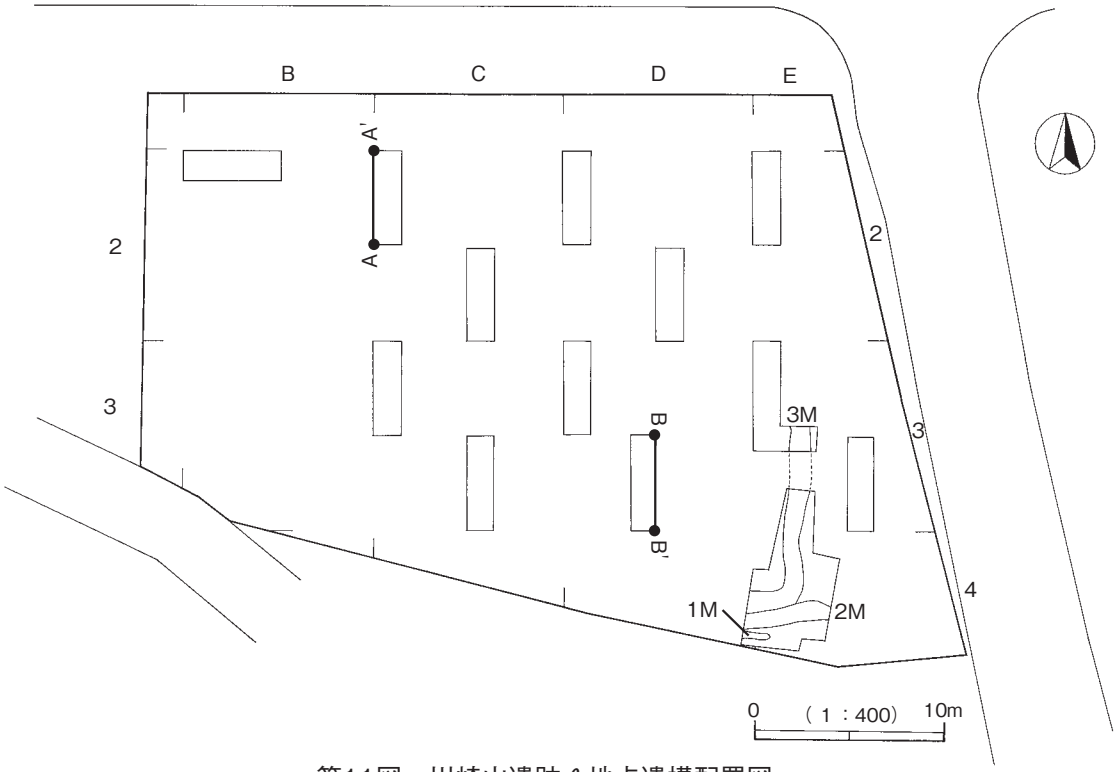
遺物は，表面採集１点を含む合計８点と少なかった。縄文土器４点のほか，土師器・陶器・磁器・焙烙各１点であった。５点を抽出して図化した。１・２は，縄文土器。ともに繊維土器で前期中葉か。１は，Ｄ２－１Ｇ出土。深鉢胴下部，復元径7.8～6.7㎝。外面橙褐色，内面黒色。繊維・細砂含む。外面縄文か，内面ナデ。２は，Ｄ２－２Ｇ出土。深鉢胴上部，復元最大径31.8㎝。外面淡褐色・淡灰褐色，内面淡赤褐色。繊維・細砂・粗砂含む。外面平行沈線・ＲＬ縄文か，内面横方向ナデ・ミガキ。３は，Ｄ２－１Ｇ出土。土師器高坏脚部，復元底径27.6㎝。外面赤褐色，内面淡灰褐色。粗砂・石英・長石多く含む。外面ナデ，内面輪積痕・ヘラ削り。４は，Ｄ２－１Ｇ出土。瓦質土器，焙烙口縁部，復元口径35㎝。黒～黒褐色。細砂含む。ロクロ成形。横方向ナデ。５は，Ｃ３－４Ｇ出土。陶器，鉢か，底部，復元底径9.8㎝。外面灰色・黒色・白色，内面灰白色。細砂。ロクロ成形。横方向ナデ。

調査のまとめ

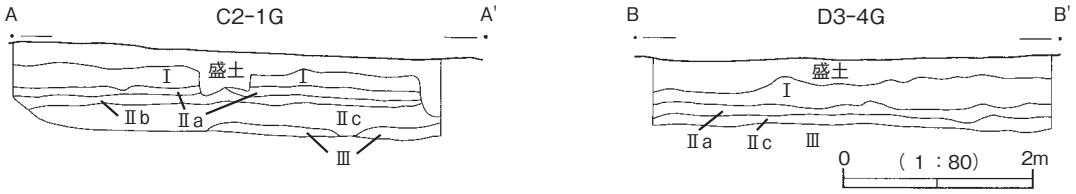
今回の調査で検出された遺構は，溝状遺構３条であった。最も古いと判断された３Ｍの南北方向部分は，道路にほぼ並行する。この道路は，大和田宿と飯綱神社（飯綱権現）とを結ぶ古道で，「権現道」あるいは「萱田道」と呼ばれていたという。大和田にある「可やた山いつ奈大権現道」の道標は，1833（天保４）年に建てられたもので，江戸時代末期には「権現道」が成立していたことになる。起源は，より古いと考えられるが，３Ｍはこの「権現道」を意識して掘られた溝であろう。

文献

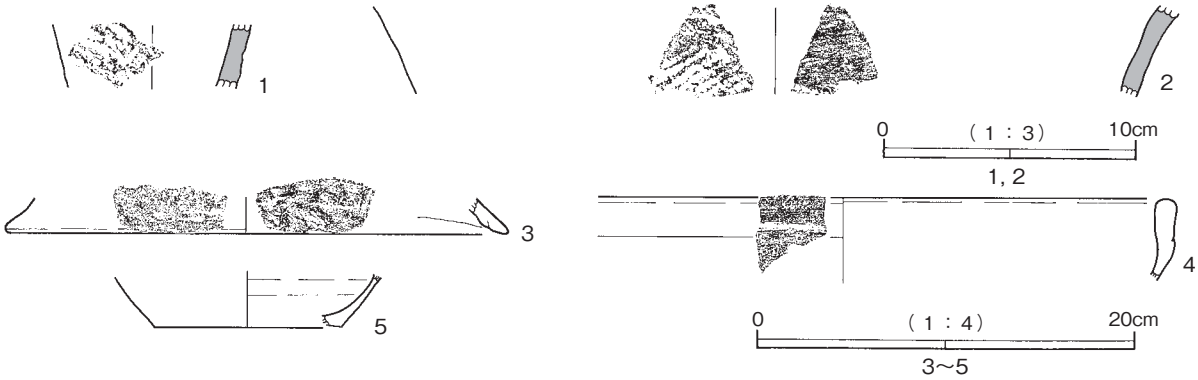
大賀健・平岡和夫(1980)『萱田町川崎山遺跡－八千代市都市計画街路3,4,1号線建設工事に伴う発掘調査報告書－』 八千代市遺跡調査会（ａ地点）
八千代市教育委員会(1992)『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告　平成３年度』（ｂ地点）
八千代市教育委員会(1994)『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告　平成５年度』（ｃ地点）
八千代市教育委員会(1998)『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成９年度』（ｄ地点・ｅ地点）
八千代市教育委員会(1999ａ)『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成10年度』（ｆ地点）
八千代市教育委員会(1999ｂ)『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成11年度』（ｇ地点）
小川和博・大淵淳志(1999)『千葉県八千代市川崎山遺跡－埋蔵文化財発掘調査報告書－』八千代市川崎山遺跡調査会（ｃ地点）
八千代市教育委員会(2000)『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成12年度』（ｈ地点・ｉ地点）
朝比奈竹男（2000）『千葉県八千代市不特定遺跡発掘調査報告１』八千代市教育委員会（ｂ地点）
八千代市郷土歴史研究会(2001)『ふるさと再発見　八千代の道しるべ』



第11図　川崎山遺跡ℓ地点遺構配置図



第12図　川崎山遺跡ℓ地点土層断面図



第13図　川崎山遺跡ℓ地点出土遺物

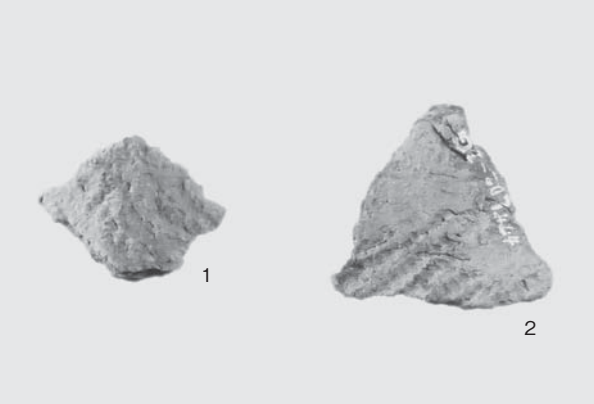
図版４　川崎山遺跡ℓ地点

（1）調査区近景

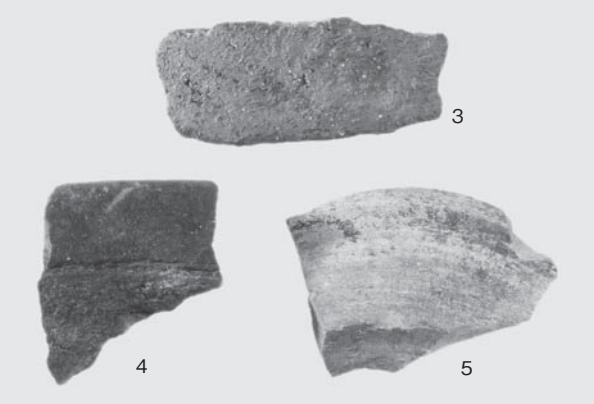
（2）C2-1G土層断面

（3）3M･2M検出状況

（4）調査風景



（5）出土遺物（縄文土器）



（6）出土遺物（土師器など）

八千代市教育委員会(2003)『千葉県八千代市公共事業関連遺跡発掘調査報告書』（ｊ地点）
常松成人・川口貴明(2003)『千葉県八千代市川崎山遺跡ｄ地点－萱田町川崎山土地区画整理事業に先行する埋蔵文化財発掘調査報告書－』八千代市遺跡調査会
森竜哉(2004)『千葉県八千代市川崎山遺跡ｈ地点－埋蔵文化財発掘調査報告書－』八千代市遺跡調査会
伊藤弘一・宮澤久史(2006)『千葉県八千代市川崎山遺跡ｋ地点－宅地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』
八千代市遺跡調査会

５．下高野新山遺跡（第５次確認調査）

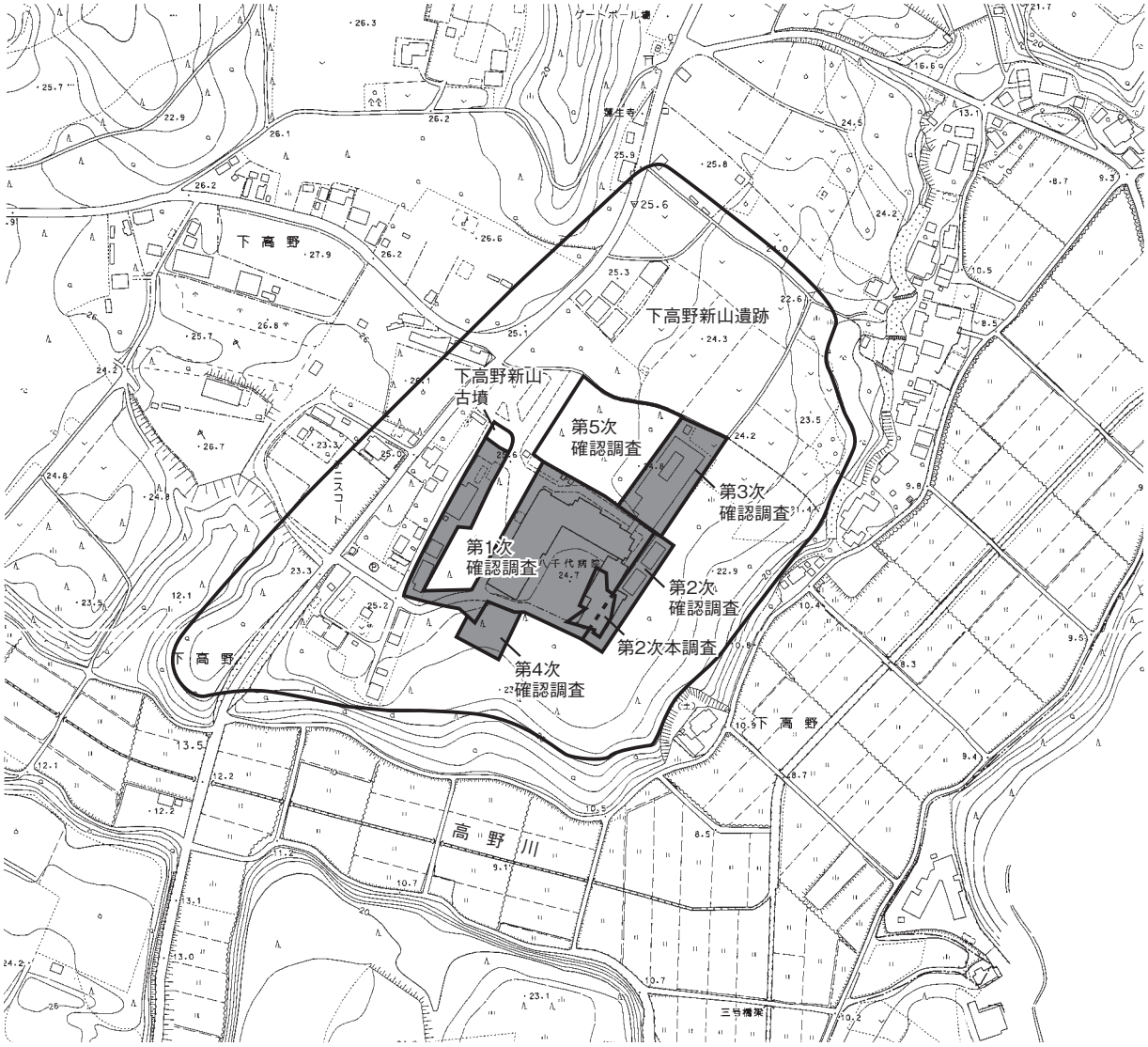
遺跡の立地と概要

下高野新山遺跡は，市域の東北部，毘沙谷津と森下谷津とが合流する地点の北西に位置する台地上にある。標高は24～26mである。八千代病院の建設・増築に伴い調査が行われており，縄文時代早期条痕文期の包含層・炉穴群・土坑群，古墳１基（下高野新山古墳：現状保存），古墳時代後期住居跡１軒，中世地下式坑などが検出されている。今回の調査地点は，病院の北部に隣接する山林を切り開いたところで，台地中央部に近い。これまで同様，早期を中心とする遺跡が広がるものと期待された。

調査の方法と経過

調査区を形状に合わせて５m四方のグリッドで区画し，２m×４mのトレンチを区画に合わせて規則正しく68か所544㎡分を設定した。人力及び重機でこれらを掘削し，遺構・遺物の検出に努めた。

調査期間は，平成18年７月27日から８月21日で，27日機材搬入。27日～８月１日グリッド・トレンチ設定。１日・２日人力による掘削。２日～４日重機による掘削。２日～８日清掃検出作業。２日～11日土層調査，実測記録。17日・18日重機による埋め戻し。21日機材を撤収し，調査を終了した。



第14図　下高野新山遺跡位置図（S＝１：5000）

調査の概要

調査区北部に当たるＥ－５Ｇ南東壁の土層は，Ⅰ層（表土層：赤褐色土），Ⅱ層（腐植土層：黒色土），Ⅲ層（ソフトローム層）という堆積であった。Ⅲ層までの深さは，0.28～0.47ｍであった。調査区南部に当たるＮ－13Ｇ北西壁の土層も，同様にⅠ層，Ⅱ層，Ⅲ層で，Ⅲ層までの深さは，0.39～0.5ｍであった。

遺構は，調査区中央やや西寄りのＦ－13Ｇで竪穴住居跡１軒，時期不明の土坑が調査区北西部Ｄ－９Ｇで２基，調査区中央やや東寄りのＬ－９Ｇで１基，合計３基検出された。住居跡は，検出面まででは遺物が出土せず，当初奈良平安時代としたが，その後の調査で縄文時代中期阿玉台式期と改めた。時期不明の土坑は，３基とも平面形が楕円形で，覆土はしまりの弱い黒色土である。大きさは，１Ｐが0.8ｍ×0.45ｍ，２Ｐが0.66ｍ×0.48ｍ，３Ｐが0.68ｍ×0.5ｍと近似しており，共通点が多い。

遺物は，出土土器が29点のみであったが，地表面採集土器が78点あり，合計107点である。縄文土器が97点を占め，土師器８点，須恵器・瓦質土器各１点である。縄文土器10点を抽出して図化した。

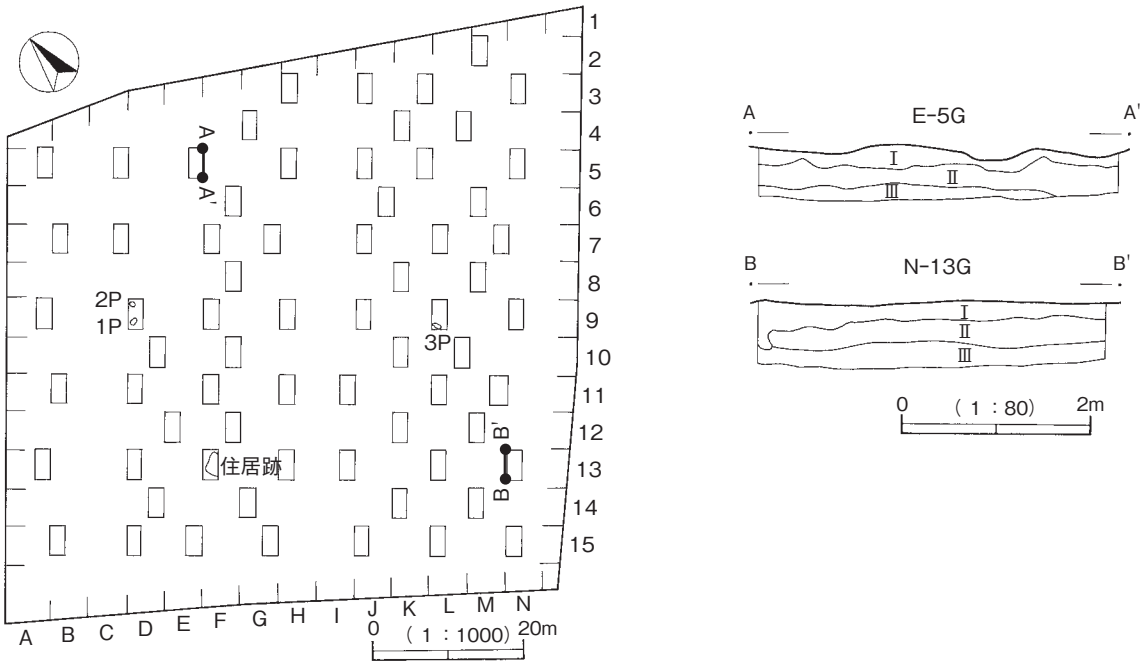
調査のまとめ

表面採集では，縄文早期条痕文土器が多く採集でき，該期の遺構が展開するかと思われたが，予想に反して遺構密度は低く，早期の炉穴群などは検出されなかった。散漫に検出された土坑が早期に属する可能性がある。早期遺構の分布の中心は，やはり台地縁辺部に近い区域になるのであろう。

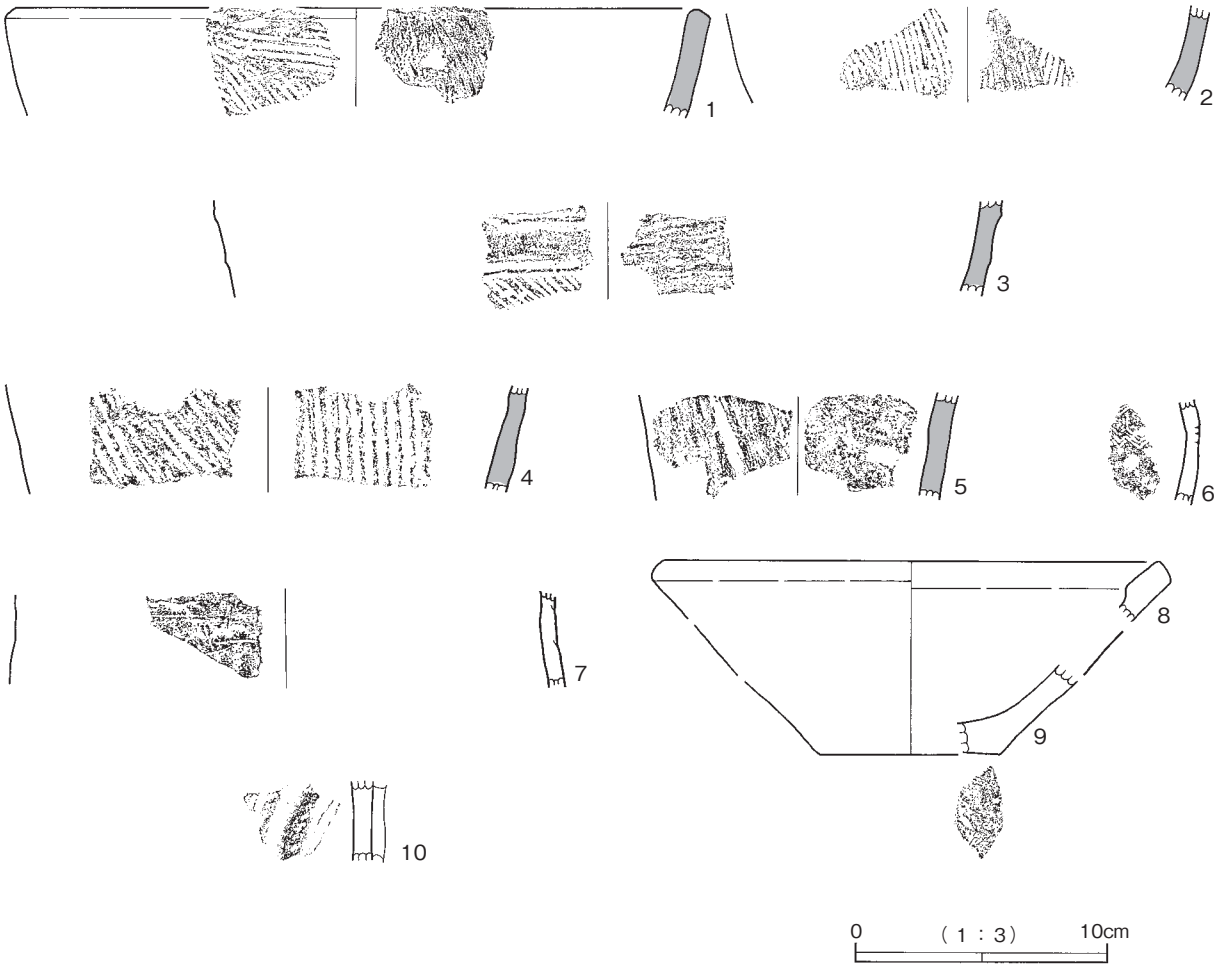
住居跡とした遺構は，縄文中期阿玉台式期のものと判断した。本遺跡における阿玉台式土器の出土状況は，今回の調査地点の南東隣接地で実施した平成元年度の調査と，病院の南側で実施した平成12年度の調査でそれぞれ少量出土している程度であった。また，今回の採集遺物の中に，市内では出土例の少ない阿玉台Ⅳ式と考えられる破片があった。本遺跡における阿玉台式期の様相に，新たな知見を得ることができた。

第１表　下高野新山遺跡縄文土器観察表

遺物№	出土位置	器形	部位	計測値(cm)	○胎土　◎器表　●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
1	Ｄ－９Ｇ １Ｐ	深鉢	口縁部	口径（26）	○繊維・細砂・粗砂 ◎良 ●外）褐色・橙褐色・灰色　内）淡橙褐色・灰色 割口）黒灰色	外）横・斜縦方向条痕文。 内）斜・縦方向条痕文。	早期
2	Ｅ－10Ｇ	深鉢	胴下部	外径 （17～19）	○繊維・細砂・粗砂 ◎良 ●外）赤褐色　内）暗灰褐色	外）縦方向条痕文。 内）縦方向条痕文・ナデ・ケズリ。	早期
3	表面採集	深鉢	胴部	外径 （29.5～31）	○繊維・粗砂・細砂 ◎良 ●外）淡褐色　内）淡褐色	外）隆起線・沈線・斜方向の充填沈線・横方向ナデ。 内）横方向ナデ。	早期　野島式
4	表面採集	深鉢	胴部	外径 （18.8～20.6）	○繊維・粗砂 ◎良 ●外）灰赤褐色　内）褐色・灰褐色	外）斜縦方向条痕文。 内）縦方向条痕文。	早期
5	表面採集	深鉢か	胴下部	外径 （11.2～12.6）	○繊維，　細砂・粗砂少量 ◎やや良 ●外）淡赤褐色　内）淡灰褐色	外）縦方向擦痕。 内）ナデ。	早期
6	表面採集	小片			○細砂 ◎やや良 ●暗赤褐色	外）細い沈線による山型文様3～4列。 内）ナデ。	
7	表面採集	深鉢	胴上部	外径 （21.4～21.8）	○粗砂・細砂・細礫 ◎良 ●外）橙色　内）褐色・灰褐色	外）横方向ナデ・輪積痕。 内）ナデ・ミガキ，平滑	
8	表面採集	浅鉢	口縁部	口径（19.4）	○雲母・粗砂・石英 ◎良 ●淡褐色	外）ナデ・ミガキ。 内）ナデ・ミガキ。段あり。	中期　阿玉台式 ９と同一
9	表面採集	浅鉢	胴下部～ 底部	底径（7.2）	○雲母・粗砂・石英 ◎良 ●淡褐色	外）ナデ・ミガキ。 底面）ケズリ。 内）ナデ・ミガキ。	中期　阿玉台式 ８と同一
10	表面採集	深鉢	胴部 小片		○雲母・石英・長石・粗砂・細礫 ◎やや良 ●赤褐色	外）ＲＬ縄文ある隆線，沈線 内）ナデ。	阿玉台Ⅳ式か



第15図　下高野新山遺跡遺構配置図・土層断面図



第16図　下高野新山遺跡の縄文土器

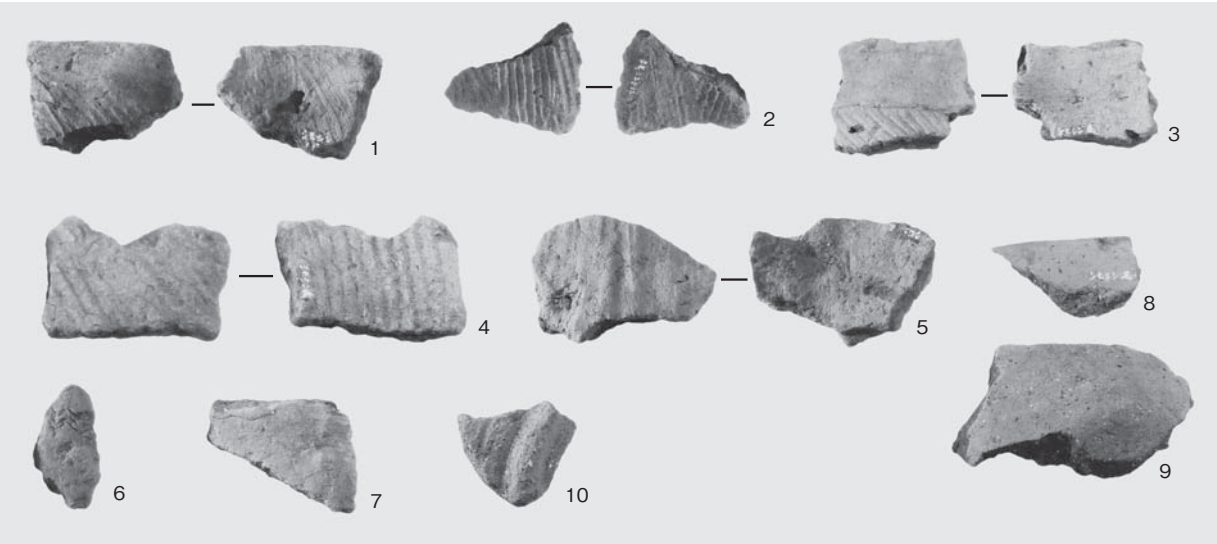
図版５　下高野新山遺跡

（1）調査前状況

（2）N-5G土層断面

（3）F-13G遺構検出状況

（4）トレンチ完掘状況



（5）縄文土器

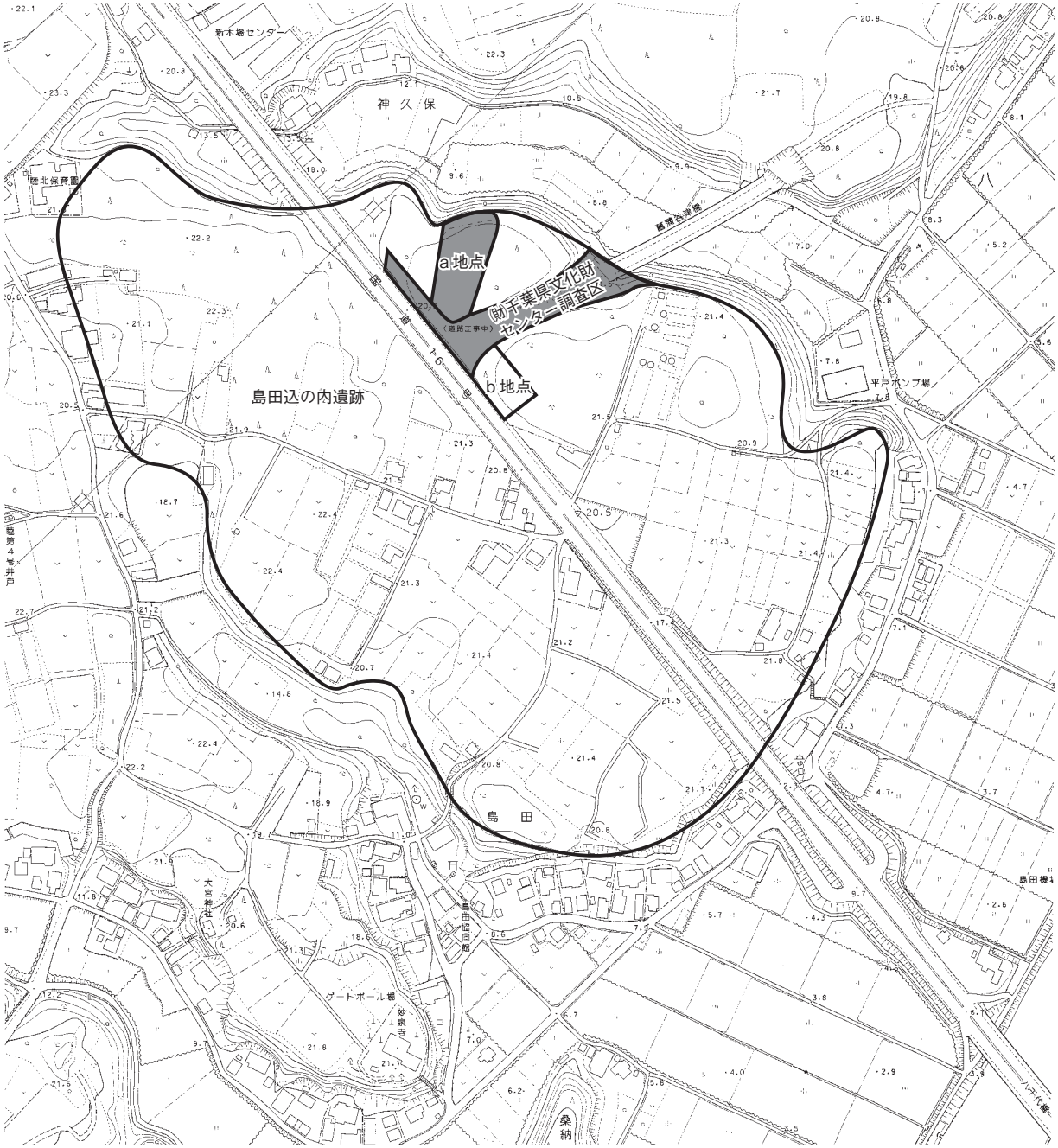
文献
八千代市教育委員会(1989)『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告　昭和63年度』（第２次確認調査）
八千代市教育委員会(1990)『千葉県八千代市市内遺跡群発掘調査報告　平成元年度』（第３次確認調査）
八千代市教育委員会(1996)『八千代市埋蔵文化財調査年報－平成６年度－』（第2次本調査）
八千代市教育委員会(2002)『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成13年度』（第４次確認調査）

6．島田込の内遺跡ｂ地点

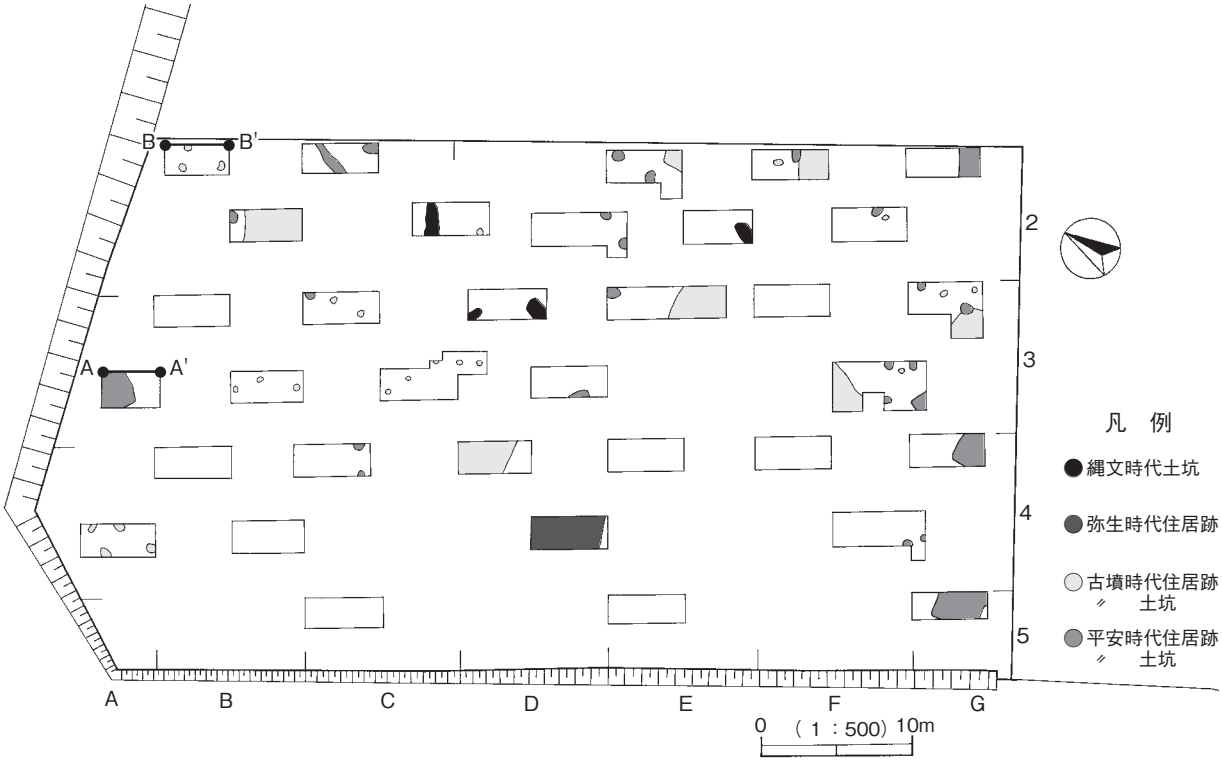
遺跡の立地と概要

島田込の内遺跡は，市域の北部，新川西岸にあり，南北を新川谷から西へ入る小谷によって画された台地上一帯に立地する。標高は20～22mである。この台地上中央を国道16号線が通っている。

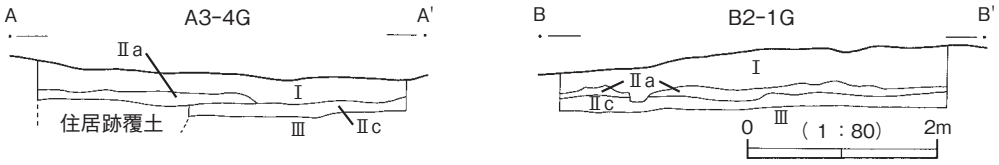
本遺跡では，主要地方道船橋印西線の建設に先行する発掘調査が，財団法人千葉県文化財センターによって行われており，古墳時代前期と奈良平安時代の住居跡を初めとする遺構群が検出されている。またその隣接地を平成15年度に市教委が調査し（ａ地点），やはり縄文時代～近世以降に至る濃密な遺構の分布が確認されている。



第17図　島田込の内遺跡位置図（S＝１：5000）



第18図　島田込の内遺跡ｂ地点遺構配置図



第19図　島田込の内遺跡ｂ地点土層断面図

今回のｂ地点は，船橋印西線に隣接し，ａ地点にも至近な位置であり，同様の状況が予想された。

調査の方法と経過

調査区を形状に合わせて10m四方のグリッドで区画し，1.7m×4.4mのトレンチを区画に合わせて規則正しく34か所設定し，拡張分を含めて255㎡分を人力及び重機で掘削し，遺構・遺物の検出に努めた。

調査期間は，平成18年９月28日から10月13日で，28日グリッド・トレンチ設定。28日・29日人力による掘削。10月３日・４日重機による掘削。４日・10日・11日清掃検出作業。11日・12日記録・土層調査。13日重機による埋め戻し，機材を撤収し，調査を終了した。

調査の概要

調査区北西部に当たるＡ３－４ＧとＢ２－１Ｇの北東壁の土層を観察したところ，比較的良好な堆積を確認できた。各層は，Ⅰ層（表土層），Ⅱa層（黒色土層），Ⅱc層（漸移層：暗褐色土層），Ⅲ層（ソフトローム層）である。層厚は，Ａ３－４ＧではⅠ層20～28㎝，Ⅱa層９～15㎝，Ⅱc層10～15㎝，Ⅲ層までの深さ32～45㎝である。Ｂ２－１ＧではⅠ層16～45㎝，Ⅱa層３～12㎝，Ⅱc層10～18㎝，Ⅲ層までの深さ40～64㎝である。

検出遺構は，縄文時代土坑４基，弥生時代住居跡１軒，古墳時代住居跡７軒・土坑23基，平安時代住

居跡５軒・土坑21基であった。

遺物は，表面採集59点を含めて合計300点を得た。うち土器・土製品が291点を占め，さらにその中で土師器が248点と最多で，縄文土器・須恵器がともに17点，弥生土器５点，泥面子１点などである。土器以外は，鉄滓１点，軽石１点，小礫2点などである。18点を抽出して図化した。

調査のまとめ

予想どおり，古墳時代前期・平安時代を中心に遺構が高密度に分布し，遺物も多量出土した。

文献

蔀淳一(1998)『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書Ⅰ－八千代市島田込ノ内遺跡－』財団法人千葉県文化財センター

八千代市教育委員会(2005)千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成16年度（ａ地点）

岸本雅人(2006) 船橋印西線埋蔵文化財調査報告書５－八千代市島田込ノ内遺跡（２）・間見穴遺跡（３）・道地遺跡（２）－財団法人千葉県教育振興財団

第２表　島田込の内遺跡ｂ地点出土遺物観察表

縄文土器

遺物№	出土位置	器形	部位	計測値(cm)	○胎土　◎器表　●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
1	Ｅ２－１Ｇ ＋表採	深鉢	胴部	外径 （26～27.2）	○繊維・細砂 ◎良 ●外）褐色・暗褐色・黒色　内）灰・灰黒色	外）撚糸Ｌによる無節。 内）横方向ナデ。	黒浜式 ２と同一個体か
2	Ｅ２－１Ｇ	深鉢	胴下部	外径 （14.4～18.2）	○繊維・細砂 ◎良 ●外）橙色　内）淡灰褐色　割口）黒色	外）撚糸Ｌによる無節。 内）横方向ナデ・ミガキ。	黒浜式 １と同一個体か
3	Ｂ４－１Ｇ	深鉢	胴部	外径（28.2）	○粗砂・細砂 ◎良 ●外）淡橙褐色・褐色　内）灰黒色	外）沈線・縄文。 内）縦方向ミガキ。	加曽利Ｅ式か
4	Ｄ４－１Ｇ	深鉢か	胴部	外径 （18.3～19.8）	○粗砂・細砂 ◎良 ●外）淡褐色・淡灰褐色　内）褐色	外）浅い格子状沈線・地文縄文か。 内）斜方向ナデ。	堀之内式粗製か
5	Ｅ３－１Ｇ	深鉢か	胴部		○粗砂・細砂 ◎良 ●外）淡褐色　内）淡灰褐色	外）条線。 内）ナデ・ミガキ。	加曽利Ｂ式～ 安行式粗製

弥生土器

遺物№	出土位置	器形	部位	計測値(cm)	○胎土　◎器表　●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
6	Ｄ４－４Ｇ	甕	口縁部		○緻密・細砂 ◎良 ●外）灰黒色・褐色　内）灰黒色・褐色	口唇上に内外から押圧した刻み。 外）複合口縁・ナデ・ミガキ。 内）ナデ・ミガキ。	後期
7	Ｄ４－１Ｇ	甕	胴部		○緻密・粗砂少 ◎良 ●外）灰褐色・黒色　内）黒褐色	外）まばらな撚糸Ｌ。 内）ナデ。	後期

土師器

遺物№	出土位置	器形	部位	計測値(cm)	○胎土　◎器表　●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
8	Ｂ２－４Ｇ	坏	口縁部	口径（16.8）	○緻密，細砂･粗砂極少 ◎良 ●外）橙色　内）橙色・黒色	外）横方向ナデ。 内）ナデ・ミガキ。	古墳時代
9	Ｅ５－１Ｇ	坏	口縁～ 胴下部	口径（14）	○緻密・細砂 ◎良 ●外）淡褐色　内）橙褐色	外）口唇直下に窪みが廻る。横方向ナデ・ヘラ削り。 内）ナデ・ミガキ。	
10	表採	甕	口縁～ 頸部	外径（16.6）	○粗砂・細砂少 ◎良 ●橙褐色・灰褐色	外）ハケ目。 内）ハケ目。	古墳時代前期
11	Ｅ３－１～ ３Ｇ		底部	底径（５）	○粗砂・赤褐色粒子 ◎良 ●外）橙色・灰白色・灰褐色　内）灰黒色	外）ナデ。 内）ナデ。	
12	Ｇ４－１Ｇ	坏	口縁～ 胴下部	口径（12.5）	○細砂 ◎良 ●外）暗褐色・褐色　内）黒褐色	ロクロ成形。 外）体部下端ヘラ削り。 内）ナデ。	平安時代
13	Ｆ３－４	甕	口縁～ 頸部	口径（24.6）	○細砂・粗砂・雲母・石英・長石 ◎良 ●外）暗褐色・褐色　内）暗褐色	口唇つまみ上げ，ほぼ直立。 外）横方向ナデ。 内）横方向ナデ。	
14	Ａ３－４	甕	底部	底径（8.2）	○細砂・粗砂・細礫・雲母・石英・長石 ◎やや良 ●外）黒褐色・黒色　内）暗褐色・褐色	外）底面木葉痕。黒色付着物あり。 内）ナデ・ヘラ削り。	
15	Ｂ３－１	甕か	胴部	5.9×5.1× 厚さ0.7	○細砂・粗砂 ◎良 ●外）橙色・淡褐色　内）淡褐色	両面ナデ。 破片の再利用品か。円形の一部を張り出し状に整形したものか。	

須恵器

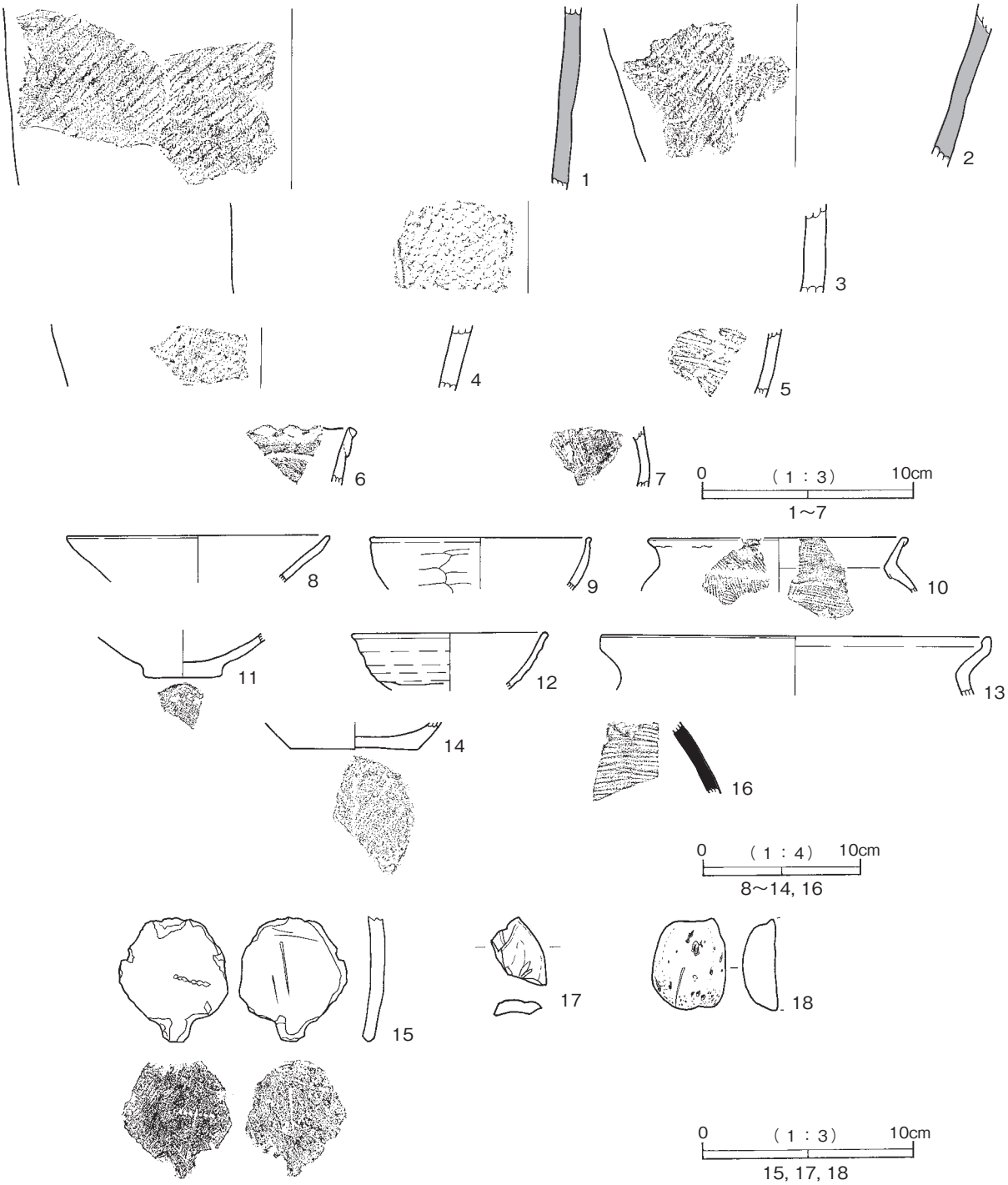
遺物№	出土位置	器形	部位	計測値(cm)	○胎土　◎器表　●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
16	Ａ３－４	甕	胴上部か		○細砂･雲母 ◎脆い ●外）灰色　内）灰白色	外）横方向の叩き目。 内）ナデ。	

泥面子

遺物№	出土位置	器形	部位	計測値(cm)	○胎土　◎器表　●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
17	Ｂ４－１Ｇ	泥面子	左上半身	3.2×2.6× 厚さ0.7	○細砂 ◎良 ●表）淡橙色　裏）灰色	和装人物	

軽石

遺物№	出土位置	器形	部位	計測値(㎜)	石材	整形・調整・文様などの特徴	時期等
18	表面採集	半球形	半欠	43.5×35×厚さ 15.5	○白色系軽石	球形に整形されている	



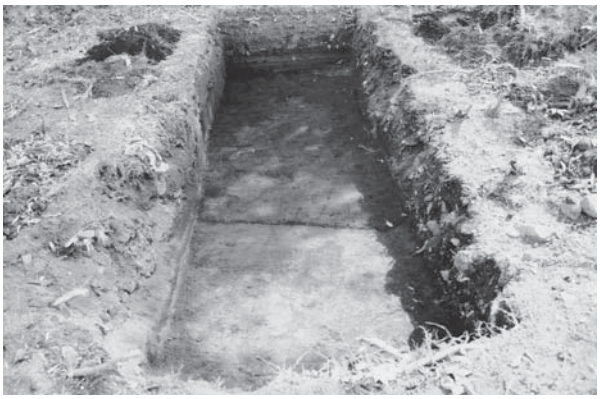
第20図　島田込の内遺跡ｂ地点の遺物

図版６　島田込の内遺跡ｂ地点

（1）調査前状況

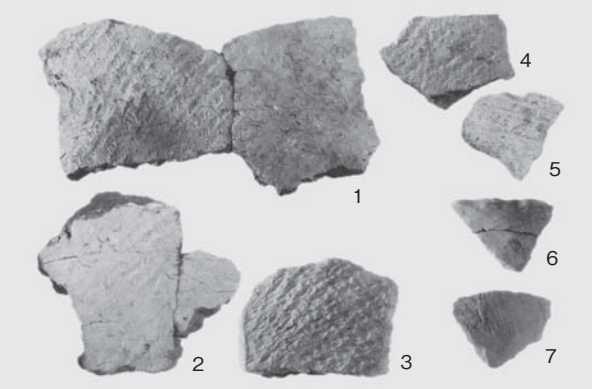
（2）A3-4G土層断面及び遺構検出状況

（3）B2-4G遺構検出状況

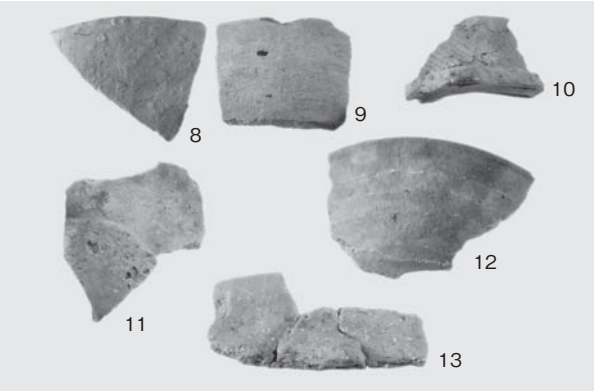


（4）G5-1遺構検出状況

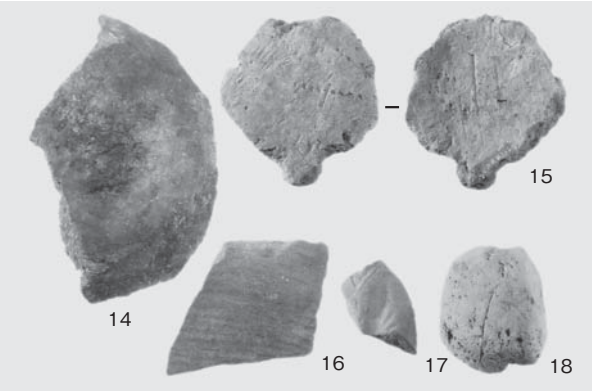
（5）調査風景



（6）遺物（縄文土器・弥生土器）



（7）遺物（土師器）



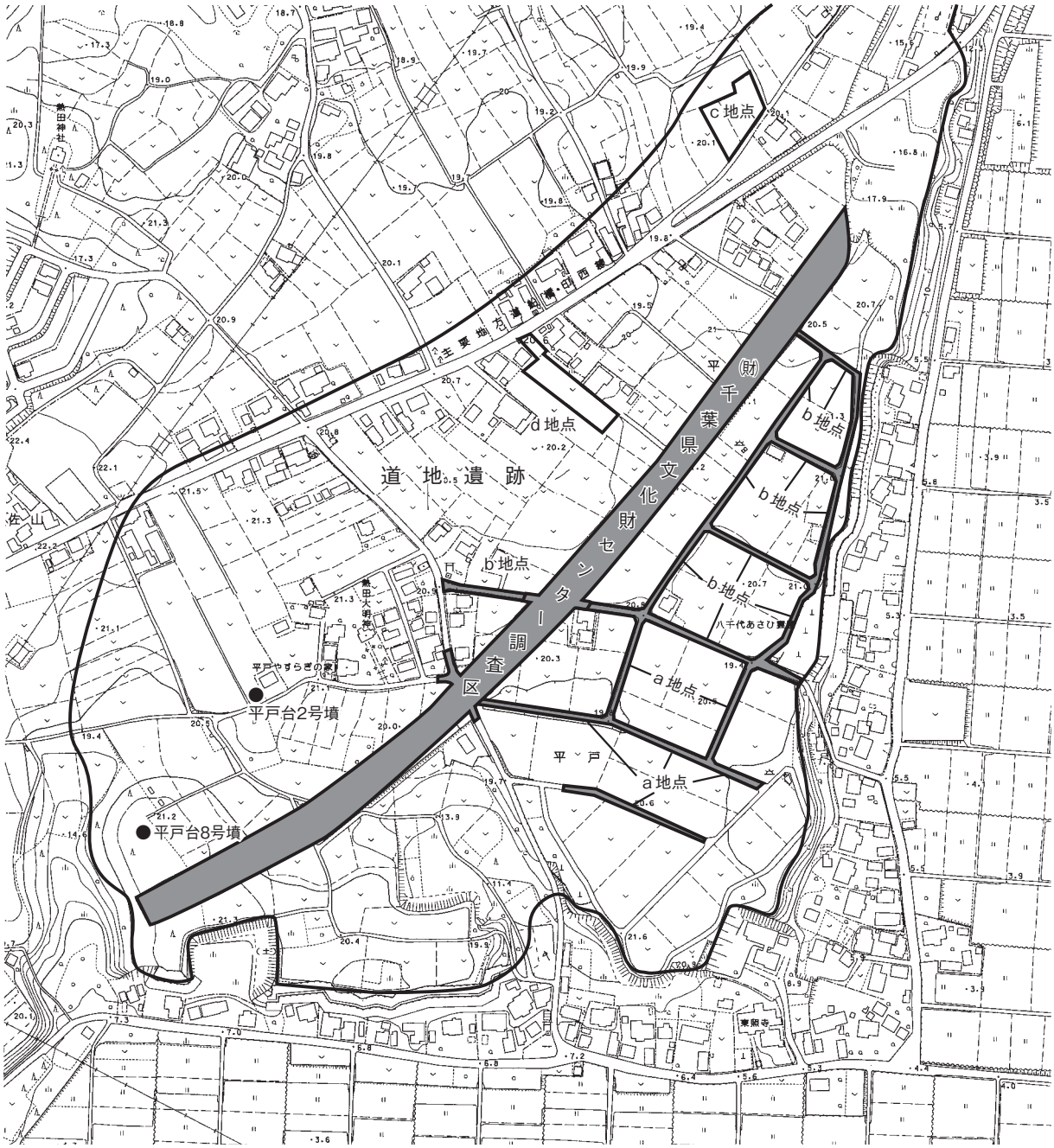
（8）遺物（土師器・須恵器等）

７．道地遺跡ｃ地点

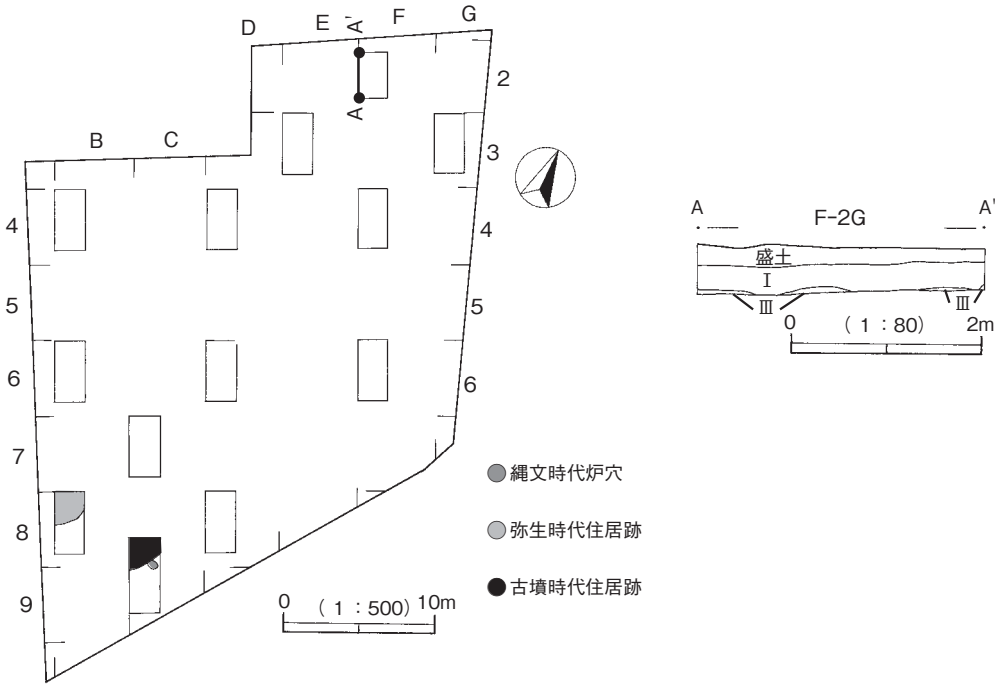
遺跡の立地と概要

道地遺跡は，市域の北部，新川と神崎川とが合流する地点を東に臨む台地上にある。この台地の南半の広大な面積を占めており，平戸台古墳群が重複している。標高は，17～22mである。

本遺跡では，昭和57年度に遺跡南東部の農道敷設に伴って発掘調査が行われ，弥生時代後期の住居跡９軒，古墳時代中期の住居跡３軒などが検出された（ａ地点）。昭和60年度にも調査が行われ弥生後期などの住居跡28軒が検出された（ｂ地点）。平成６・８・９・14年度には主要地方道船橋印西線の建設に先行して財団法人千葉県文化財センターによって発掘調査が行われ，弥生時代後期～古墳時代前期の



第21図　道地遺跡位置図（S＝１：5000）



第22図　道地遺跡ｃ地点遺構配置図・土層断面図

住居跡75軒・環濠１条，古墳時代中・後期の住居跡９軒，古墳２基などが検出された。平成11年度には平戸台２号墳の発掘調査が行われ，古墳の石棺に一部を破壊された弥生時代後期の住居跡１軒が検出された。このように弥生時代後期～古墳時代前期を中心に，濃密な遺構の分布が確認されている。

今回のｃ地点は，遺跡の北部の標高約20ｍの荒蕪地である。

調査の方法と経過

調査区を形状に合わせて５ｍ四方のグリッドで区画し，２ｍ×４ｍのトレンチを区画に合わせて規則正しく13か所104㎡分を設定し，人力及び重機で掘削し，遺構・遺物の検出に努めた。

調査期間は，平成18年12月１日から12月８日まで。１日機材搬入・グリッド・トレンチ設定など。１日～５日人力による掘削。５日重機による掘削。５日～６日清掃検出作業・土層調査。７日実測など。８日機材を撤収し，調査を終了した。

調査の概要

調査区北部に当たるＦ－２ＧとＦ－６Ｇの北東壁の土層を観察した。最上層は，砂利及び黄褐色土の盛土，Ⅰ層（旧表土層：褐色土層），Ⅲ層（ソフトローム層）となり堆積状態は，不良であった。層厚は，Ｆ－２Ｇでは盛土が14～24㎝，Ⅰ層が23～30㎝で，Ⅲ層までの深さは40～53㎝である。Ｆ－６Ｇでは盛土が29～36㎝，Ⅰ層が18～26㎝で，Ⅲ層までの深さは47～58㎝である。

検出遺構は，縄文時代炉穴１基，弥生時代住居跡１軒，古墳時代住居跡１軒であった。

遺物は，表面採集８点を含めて合計107点の土器片を得た。うち縄文土器が45点で最多，弥生土器が33点，土師器が17点，陶器が１点，細片11点である。12点を抽出して図化した。

調査のまとめ

遺構は，調査区の南部にまとまって検出された。遺物も調査区南半の方に多く出土した。

第３表　道地遺跡ｃ地点出土土器観察表

縄文土器

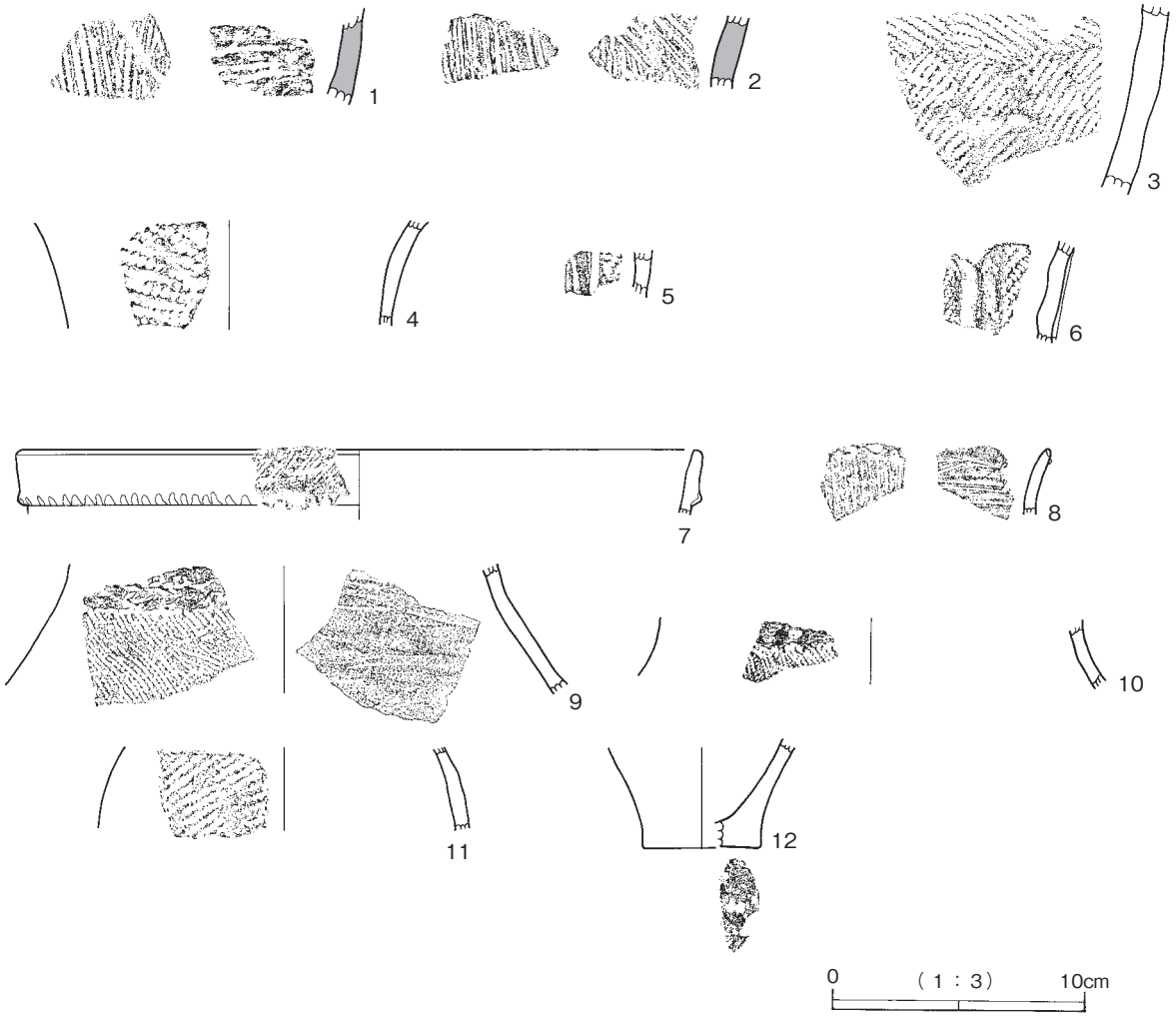
遺物№	出土位置	器形	部位	計測値(cm)	○胎土　◎器表　●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
1	Ｄ－６Ｇ	深鉢	胴部		○繊維・細砂・粗砂 ◎やや良 ●淡褐色　　割れ口）黒灰色	外）縦方向条痕文。 内）横～斜方向ナデ・条痕文（不鮮明）。	早期
2	Ｆ－４Ｇ	深鉢	胴下部か		○繊維・細砂・粗砂 ◎やや良 ●外）淡橙褐色　内）灰褐色	外）縦方向条痕文。 内）斜方向～縦方向条痕文。	早期
3	Ｂ－８Ｇ	深鉢	胴部	外径（30）	○粗砂・細砂 ◎摩滅 ●外）淡褐色・黒褐色　内）淡灰褐色	外）羽状縄文。ＬＲとＲＬ。 内）ナデ。	
4	Ｂ－８Ｇ	深鉢	頸部	内径（14）	○粗砂・細砂 ◎良 ●暗褐色・黒褐色	外）粗い縄文ＬＲか。 内）ナデ・ミガキ。	前期末～ 中期初か
5	Ｂ－８Ｇ 覆土	深鉢か 小片	胴部		○緻密，細砂 ◎良 ●外）淡灰褐色・淡褐色　内）淡褐色	外）磨消縄文，沈線，縦方向ミガキ。 内）ナデ・ミガキ。	加曽利Ｅ式
6	Ｆ－４Ｇ	深鉢か 小片	口縁部 付近か		○細砂・粗砂・赤褐色粒子 ◎やや良 ●暗灰褐色	外）隆線，ＲＬ縄文か。 内）横方向ナデ。	加曽利Ｅ式

弥生土器

遺物№	出土位置	器形	部位	計測値(cm)	○胎土　◎器表　●色調	整形・調整・文様などの特徴	時期等
7	Ｆ－４Ｇ	甕	口縁部	口径（27）	○細砂・粗砂 ◎良 ●外）黒色・黒褐色　内）褐色	口唇上に縄文。 外）複合口縁・附加条ＬＲ＋２Ｒ，下端に刻み。内）横方向ナデ。	後期
8	Ｃ－９Ｇ	甕	口縁部		○細砂・粗砂 ◎良 ●外）黒灰色　内）褐色	口唇に押圧状の刻み。 外）縦方向ハケ目。 内）横方向ハケ目。	後期
9	Ｂ－８Ｇ 覆土	甕	頸部～ 胴上部	上端外径（16.9）	○細砂・粗砂 ◎良 ●外）黒褐色・黒色　内）暗褐色	外）Ｓ字結節文２列，附加条ＲＬ＋２Ｌ。 内）斜方向ナデ・ミガキ。	
10	Ｂ－８Ｇ 覆土＋ Ｂ－８Ｇ	甕	頸部 小片	頚部外径（16.6）	○細砂・粗砂少 ◎良 ●外）淡橙色　内）淡褐色	外）附加条ＲＬ＋２Ｌ。 内）横方向ナデ。	
11	Ｃ－９Ｇ	甕	胴上部	外径（14.6）	○細砂・粗砂 ◎良 ●外）褐色・赤褐色　内）灰褐色	外）附加条ＲＬ＋２Ｌ。 内）ナデ。	
12	Ｂ－８Ｇ	甕	胴下～ 底部	底径（4.8）	○細砂・粗砂少 ◎剥離あり ●外）淡赤褐色・褐色　内）灰色・灰黒色	外）縦方向ミガキ痕顕著。 内）ナデ・ミガキ。	

文献

林勝則(1986)『平戸道地遺跡－農業道路敷設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』八千代市教育委員会（ａ地点）
八千代市教育委員会(2001)『千葉県八千代市平戸台２号墳発掘調査報告書』
田中裕・西野雅人・古内茂(2004)『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書２－八千代市道地遺跡－』財団法人千葉県文化財センター
岸本雅人(2006)『船橋印西線埋蔵文化財調査報告書５－八千代市島田込ノ内遺跡（２）・間見穴遺跡（３）・道地遺跡（２）－』財団法人千葉県教育振興財団



第23図　道地遺跡ｃ地点出土遺物

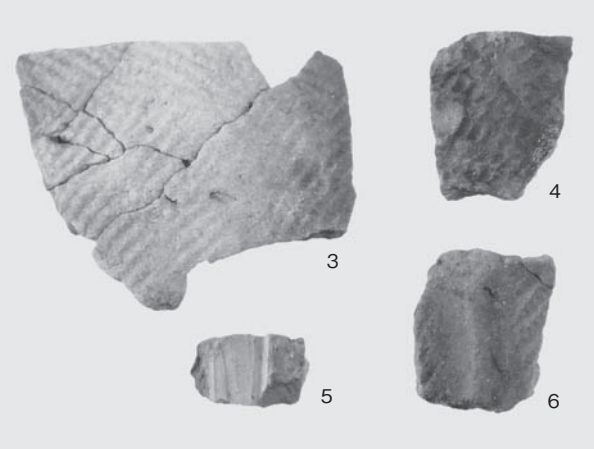
図版７　道地遺跡ｃ地点

(1) 調査前状況

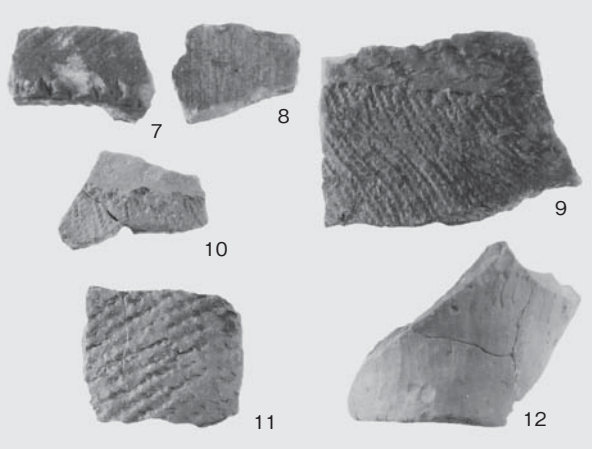
(2) C-8～9G遺構検出状況

(3) トレンチ完掘状況

(4) 出土遺物（縄文土器-1）



(5) 出土遺物（縄文土器-2）



(6) 出土遺物（弥生土器）

８．道地遺跡ｄ地点

遺跡の立地と概要

今回のｄ地点は，遺跡のやや北寄り，主要地方道船橋・印西線に接する，標高約20mの平坦な畑地である。

調査の方法と経過

調査区を形状に合わせて10m四方のグリッドで区画し，２ｍ×４ｍ及び２ｍ×３ｍのトレンチを区画に合わせて規則正しく14か所110㎡分を設定し，人力及び重機で掘削し，遺構・遺物の検出に努めた。

調査期間は，平成18年12月14日から12月20日まで。14日機材搬入・グリッド・トレンチ設定など。14日～18日人力による掘削。18日重機による掘削。18日～19日清掃検出作業・土層調査。20日機材を撤収し，調査を終了した。

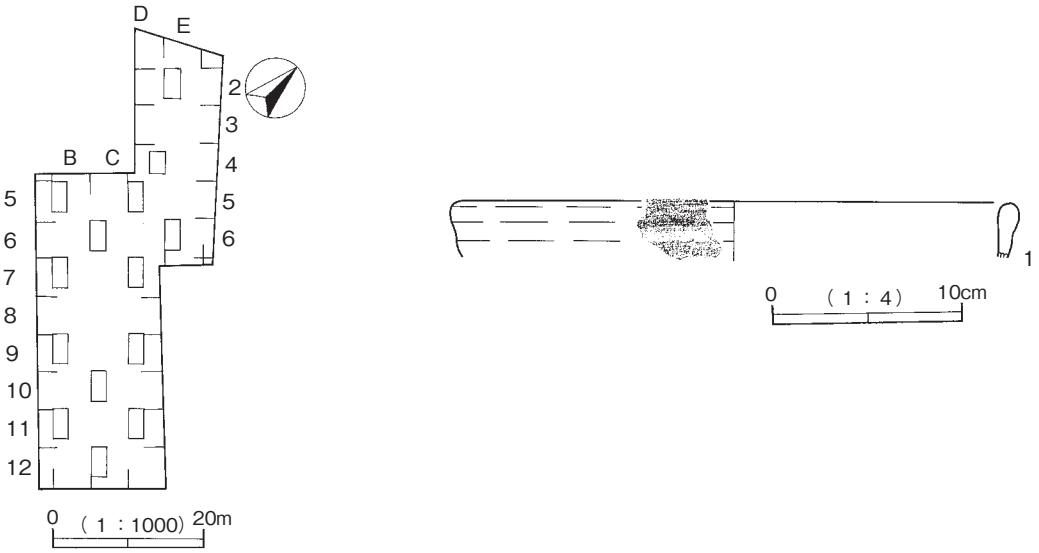
調査の概要

調査区北側が激しく撹乱されるなど，土層の堆積は不良であった。遺構は，検出されなかった。

出土した遺物は，Ｂ－９Ｇから土器小片（土師器か）２点・砥石片１点・小礫１点，Ｅ－６Ｇから弥生土器小片１点で合計５点のみであった。表面採集の土器片が38点であったが，うち縄文土器が８点，弥生土器～土師器が15点，須恵器１点，瓦質土器２点，陶器１点，磁器４点，細片７点である。図化に耐えられるものが少なく，表採の瓦質土器１点のみを図化し，第24図に示した。器種は，焙烙か。部位は口縁部。復元口径30㎝。胎土は粗砂少量。黒色・黒灰色。ロクロ成形，外面は横方向ナデ・炭付着，内面は剥離。近世以降の所産であろう。

調査のまとめ

主要地方道船橋印西線などの調査では，多数の遺構が検出されているが，今回の地点は，検出遺構は無く出土遺物も少なかった。ｃ地点と合わせ，道地遺跡の土地利用状況を考える上で参考となる情報を得ることができた。



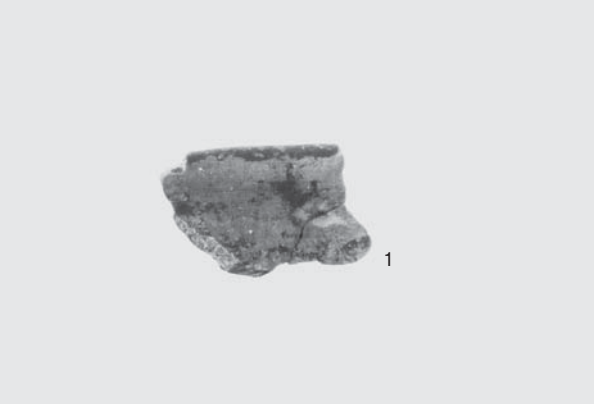
第24図　道地遺跡ｄ地点トレンチ配置図・表採遺物

図版８　道地遺跡ｄ地点

(1) 調査前状況

(2) B-9G調査状況

(3) トレンチ完掘状況



(4) 表採遺物

報　告　書　抄　録

ふりがな	ちばけんやちよし　しないいせきはっくつちょうさほうこくしょ　へいせい19ねんど
書名	千葉県八千代市　市内遺跡発掘調査報告書　平成19年度
副書名	大和田新田芝山遺跡ｃ地点　稲荷前遺跡ｄ地点　新東原遺跡ｈ地点　川崎山遺跡ℓ地点　下高野新山遺跡 島田込の内遺跡ｂ地点　道地遺跡ｃ地点　道地遺跡ｄ地点
編著者名	常松成人
編集機関	八千代市教育委員会
所在地	〒276-0045　千葉県八千代市大和田138-2　　TEL 047（483）1151代表
発行年月日	2008年３月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大和田新田芝山遺跡ｃ地点	八千代市大和田新田字芝山885番5，14	12221	159	35度 43分 48秒	140度 ５分 12秒	20060419 ～ 20060427	216 /2,114.9	共同住宅建設
稲荷前遺跡ｄ地点	八千代市上高野字上谷津台1119-1の一部ほか	12221	232	35度 43分 8秒	140度 ８分 21秒	20060501 ～ 20060502	129 /1,328.95	共同住宅建設
新東原遺跡ｈ地点	八千代市勝田字新東原 1285-1，1287，1288，1291-6･7，1293	12221	259	35度 41分 58秒	140度 ８分 29秒	20060529 ～ 20060627	452 /6,242 下層16	宅地造成
川崎山遺跡ℓ地点	八千代市萱田町字川崎山731番１の一部ほか	12221	241	35度 43分 13秒	140度 ６分 40秒	20060621 ～ 20060706	105 /1,051.56	共同住宅建設
下高野新山遺跡	八千代市下高野字新山550	12221	92	35度 44分 38秒	140度 ８分 28秒	20060727 ～ 20060821	544 /4,985	病院増築
島田込の内遺跡ｂ地点	八千代市島田字込之内988-1ほか	12221	48	35度 45分 42秒	140度 ６分 20秒	20060928 ～ 20061013	255 /2,168.71	店舗建設
道地遺跡ｃ地点	八千代市佐山字子ノ神台2367-2･3	12221	18	35度 46分 21秒	140度 ７分 ５秒	20061201 ～ 20061208	104 /991	住宅建設
道地遺跡ｄ地点	八千代市平戸字沼上57-1ほか	12221	18	35度 46分 14秒	140度 ７分 ０秒	20061214 ～ 20061220	110 /1,019	住宅建設

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大和田新田芝山遺跡ｃ地点	散布地	縄文時代 近世	なし	縄文土器（中期・後期） 陶器，磁器，焙烙	
稲荷前遺跡ｄ地点	散布地	縄文時代 奈良・平安時代	なし	なし	
新東原遺跡ｈ地点	散布地	縄文時代 近代	時期不明土坑２基	縄文土器，剥片 砲弾の弾子	
川崎山遺跡ℓ地点	散布地	縄文時代 古墳時代 近世以降	溝状遺構３条	縄文土器（前期繊維） 土師器 焙烙，陶器	
下高野新山遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡１軒 時期不明土坑３基	縄文土器（早期条痕文） 土師器	第５次 確認調査
島田込の内遺跡ｂ地点	集落跡	縄文時代 弥生時代 古墳時代 平安時代	土坑４基 竪穴住居跡１軒 竪穴住居跡７軒，土坑23基 竪穴住居跡５軒，土坑21基	縄文土器 弥生土器 土師器，須恵器，軽石 泥面子	
道地遺跡ｃ地点	集落跡	縄文時代 弥生時代 古墳時代	炉穴１基 竪穴住居跡１軒 竪穴住居跡１軒	縄文土器（早期・中期） 弥生土器 土師器	
道地遺跡ｄ地点	散布地	近世以降	なし	縄文土器（中期） 弥生土器 土師器	
要　　約	大和田新田芝山遺跡ｃ地点　台地縁辺部では旧石器・縄文・平安各時代の遺構・遺物が検出されるのに対し，台地中央部のc地点では遺構は無く，遺物は少量であった。 稲荷前遺跡ｄ地点　遺構・遺物とも検出されなかった。 新東原遺跡ｈ地点　遺構・遺物とも希薄な状況であった。 川崎山遺跡ℓ地点　溝を３条検出した。遺物は少量であった。 下高野新山遺跡　縄文時代中期の住居跡と遺物を検出した。本遺跡での縄文中期に関する新知見を得た。 島田込の内遺跡ｂ地点　縄文・弥生・古墳・平安各時代の遺構・遺物が検出された。隣接地と同様に遺構密度の高い状況が明らかとなった。 道地遺跡ｃ地点　調査区の南側で縄文時代の炉穴・弥生時代の住居跡・古墳時代の住居跡を検出した。 道地遺跡ｄ地点　遺構は無く，遺物は少量であった。両地点の調査で，道地遺跡における遺構分布状況の新情報を得ることができた。				

千葉県八千代市
市内遺跡発掘調査報告書
平成19年度

発　行　日　　平成20年３月28日
編集・発行　　八千代市教育委員会 社会教育課
〒276-0045 千葉県八千代市大和田138-２
TEL 047(483)1151

印　　刷　　株式会社　マネジメント オオナカ